

ちやらんぽらん

# かわら版

特集 自分史のすすめ

私のバケツトリスト

心がホッコリする

ほんとうのお話

チャランポランエッセイ

ジャーナリストの目

素敵な人見つけた

2021

10号

令和3年10月1日

お蔭様で10号達成！

## チャランポランの会は何をする会？

チャランポランの会は、シニアを応援する会です。

- 会報誌「かわら版」を通して、シニアの方々を元気にしていきます。
- 交流の場を提供し、楽しみや生きがいを持てるようにします。
- シニア向けの講演会、イベントを開催していきます。

チャらんぽらんの会には、原則シニアの方であれば、どなたでも会員になります。

- ① 氏名
  - ② 住所
  - ③ 電話番号
  - ④ かわら版を何でお知りになったか
  - ⑤ 出身地
  - ⑥ Eメールアドレス（オプション）
  - ⑦ 生年月日（オプション）
- をお書きの上、チャランポランの会まで郵送してください。Eメールでお申し込みの場合も上記の内容（①～⑦）を忘れずにお書き下さい。

【郵送先】 CharanPoran USA  
22301 S Western Ave. Suite 104 Torrance, CA 90501

## お知らせ

■ 2022年度から、新しい「チャランポランの会」となり、会の住所も変更、運営委員も新しくなります。詳細は2022年に発行される「かわら版」11号をご覧ください。

■ CharanPoran USA 宛のチェックを受け付けられるようになりました。皆様の変わらぬご支援ご協力の程、よろしく願い申し上げます。

＜新運営委員＞

会 長： 土田三郎 副会長：宮里カツ、太田 勉  
運営委員：土田三郎、宮里カツ、太田 勉、石口 玲  
大田祥子、古口友紀

## 目 次

- P. 3 思いやりの連鎖「一つの思い・一つの行動」：鶴亀 彰
- P. 4 行動するシニアを目指して：鳥居欣一
- P. 6 ジャーナリストの目「解放」されない非・常民のアメリカ：北岡和義
- P. 8 2020東京オリンピック：半田俊夫
- P. 9 B級グルメ食べ歩き：宮田慎也
- P. 10 特集『自分史のすすめ』 高橋 誠
- P. 12 アイデンティティを意識する「日系二世の自分史」：中森雅実
- P. 14 父の塩むすび：ローペス文子
- P. 15 金婚旅行「世界一周クルーズ」：井出英雄
- P. 16 私のバケツリスト
- P. 18 終の棲み家：入江健二
- P. 20 懐かしさという宝物：鶴亀彰
- P. 22 旅立ち：高山秀男
- P. 23 友への報告と感謝：鶴亀彰 「かわら版」0号より：（故）雲田康夫
- P. 24 =かわら版0号から10号=
- P. 26 川柳「創作」の楽しみ - 祖父の目を通した人肌の川柳 - : 16代目尾藤川柳
- P. 28 永代供養ブーム：若尾龍彦
- P. 29 わが青春回顧録「電車の中で会った女性」：石口玲
- P. 30 若い研究者物語：土田三郎
- P. 32 みんなの広場・おたより
- P. 34 素敵な人みつけた「ビル渡辺」
- P. 35 寄付をいただいた皆様・編集後記

## 会 の 名 称

### 『チャランポラン』

私達、発起人は二十代から六十代まで長い間、一応真面目に仕事し、子供を育て、一社会人・一家庭人としてそれなりの責任を果たして来ました。ふと気が付いて見ると、もう高齢者です。昔の元気はなく、体力も落ちました。これからの人生をいかに生きるかと考える時、やはり明るく元気に過ごしたいものです。それには今までの常識の枠を離れ、自由な新しい発想や考え方で生きるのが良いのではと思います。

その理想が「チャランポラン」です。一見、「真面目や責任」とは対極にある考えのようですが、今まで以上に豊かに生きるために必要なキーワードかなと思います。認知症防止のためにも、是非皆さん、一緒に楽しく、チャランポランに生きましょう！

## チャランポランの会

- 発起人  
鳥居欣一 （故）雲田康夫  
鶴亀彰 高山秀男
- 運営委員  
鳥居欣一 鶴亀彰 土田三郎  
宮田慎也 石口玲
- かわら版  
北村垂矢 佐伯和代

### CharanPoran USA

22301 S. Western Ave. Suite 104  
Torrance, CA 90501

☎ 310.347.7300

（メッセージを必ずお残し下さい）

Email: CharanPoranUSA@gmail.com

www. CharanPoranUSA.com



# 心がホッコリする

## ほんとうのお話

### 思いやりの連鎖

#### 「一つの思い・一つの行動」

2020年11月23日、ユタ州のソールトレーク市の自宅で29才のスポーツ記者のアンディ・ラーソンさんは朝からイライラしていました。新型コロナウイルスのパンデミックのため外出できず、電話で試みた地元のフットボールスターとのインタビューも上手く行きませんでした。「コロナのくそつたれ！直接会って取材出来れば、もっと良い記事が書けるのに！」と怒っていました。そこに電話が入りました。

隣町に住む母親からでした。「アンディ、押し入れの中から貴方の子供の頃の貯金箱が見つかったのよ。けっこう、ずっしりと重たいわよ」と、思いがけない話です。すぐに駆けつけました。近くの銀行で数えて貰うと、165ドル84セントありました。「しめしめ、この臨時収入で、久しぶりに高級レストランの豪華なディナーとワインを家まで届けて貰おうか」とアンディさんは思いました。そこで目にしたのがテレビのニュースでした。「パンデ

ミックで失業者が増加し、感謝やクリスマスなどの休日を楽しめない家族が少なくないだろう」と伝えていました。アンディさんの心に一つの思いが浮かびました。「俺が贅沢な食事などして何にならぬ。ほんのわずかながら、このお金を困った人へ上げよう」

彼はすぐにも行動しました。手元のスマホを取り上げ、ツイッターに「子供の頃の貯金箱が見つかり、165ドル84セントありました。どなたかに上げたいと思います。休日の食事がギフトにでもお使い下さい」と書き込みました。11月23日の午後3時58分でした。そのわずか6分後、早速連絡が入ったのです。「やー、来たな。どんな人で、どんな理由でお金が欲しいのだろう」と思いつつ、届いたメッセージを読んだアンディさんは「これは何だ！」と驚きました。

連絡して来たのはユタ州の別の町に住むジェフ・ジョーンズさんでした。実は彼もパ

ンデミックのため、公認会計士の仕事も減り、イライラしていたのです。妻と三人の育ち盛りの娘との5人家族で、「このままだと、生活にも支障が出る」と心配していました。仕方なく手持無沙汰もあり、何か良いニュースはないかと思いついて、ツイッターを覗いて見たのでした。そこにアンディさんのメッセージがあり、彼はすぐに連絡をしたのです。午後4時4分でした。

#### 寄付の始まり

アンディさんが驚いたのは「お金を頂きたい」とのメッセージではなかったからです。「貴方は素晴らしい事をなさっています。私も参加させて下さい。私も150ドル寄付します」とありました。

そしてそれが、その後、次々に届いた同様の寄付の始まりでした。「アンディさんと同額の165ドル84セントを寄付します」

「私も生活に余裕がありません。わずか10ドルだけです。子供が自分の貯金箱を開け、寄付してくれたりもしました。外国からの寄付もありました。アンディさんがツイッター

に書き込んでから24時間たった時には、総額はなんと、5万5千ドルにもなっていました。350倍以上の金額です。総勢992人の善意の連鎖でした。

もう一つアンディさんが驚いた事がありました。それはお金が欲しいという大半の連絡は、自分のためではなく、他人への支援を願うものだったのです。「稼ぎ手の夫がコロナで死に、困窮している女性とその子供達を助けて欲しい」「近所に住む一人住まいの老人を援助して欲しい」等というものでした。

集まった浄財は114の家族に休日の食事代やギフト代、溜まっている家賃や水道代金や光熱費の支払い、車の修繕費等として贈られました。残りは地元で恵まれない人々に食料を届けるフードバンクに寄付されました。

一つの善意の思いが、一つの実際の行動に繋がりが、それが想像もしない、大きな喜びと幸せを生みました。パンデミックの陰で生まれた一つの物語です。

文責 鶴亀 彰

# 行動するシニアをめざして!!

待望の10号を刊行することができました。

これは一緒にチャランポランの会を始めた雲田さんが天国で一番喜ばれていることだと思います。「会を始めた以上、会報誌『かわら版』は10号までは絶対に『出そう』と雲田さんは口癖のようにいつも云っていましたから…。

「1冊だけ出して終わったのでは格好がつかないから第1号は0号にしよう」と言ったのは雲田さん、会の名称を「チャランポラン」と名付けたのも雲田さんでした。当初、この名前には発起人の間で抵抗がありました。が、生真面目な雲田さんが「あまりこだわらないで気がるにやろう」と言ったことで、そういう気分で作るのも良いなあということになり、「よしチャランポランで行こう」となったわけです。今では、この名前に愛着すら感じていきます。

## 「チャランポランの会」発足

この「チャランポランの会」発足のきっかけを簡単に記したいと思います。2015年6月熱海の温泉に友人、知人が18名ほど集まり、「少子高齢化時代に、私たちシニアに何が出来るか」というテーマで2泊3日の会合を持ちました。日本は、もうすぐ人口の三分の一が高齢者という時代を迎えようとしています。そのシニアに何が出来るか、またシニアの最大の問題である「シニアの健康問題」が議題となりました。シニアが健康になれば、シニアが幸せになるだけでなく、医療費の削減になり、結果、社会貢献にも繋がります。そこで「健康長寿を目指す会」を作ってはどうかということになり、集まった仲間の一人が保有している、自然豊かな「伊豆食文化公園」という施設を貸与してもらい、会の拠点

としてスタートするところまで話は進みました。「伊豆食文化公園」で、無農薬の自然食づくりや体操、陶芸やセミナーなどを開き、楽しく過ごせる場所にする構想でした。その後、東京でも数回、会合を持ちました。が、結局、総論賛成、各論反対で残念ながら沙汰済みとなってしまいました。それから、2年後の2018年、「日系パイオニアに感謝する会」を成功裡に終えた雲田さんが、私の事務所に来られて「前に鳥居さんが話していたシニアの会のこと、今なら出来るかもしれない」と言われました。早速、鶴亀さんの参画をお願いすることで両者一致し、鶴亀さんに加わって頂きました。さらに、シニアの中核を背負う、団塊の世代の代表という事で高山さんにも参加してもらい、四人の発起人で「チャランポランの会」を発足させたのです。まだシニアではありませんが、会に華を添えるため

に、北村亜矢さんと佐伯和代さんにサポーターとして加わって頂きました。この会の成功(?)の立役者は、この会のお蔭と云っても過言ではないと思います。

とにかく、シニアが「ワクワクするような人生をおくれるような会」にしたいと考え、細かいことは決めずに、活動しながら…というスタートでした。それが良かったと思っています。もし、形に拘っていたら創刊号『0号』も目の目をみず終わっていたかもしれません。取り敢えず、参加されるシニアの皆様と繋がるための会報誌「かわら版」の発行から着手しました。

チャランポランの会のウェブサイト「かわら版0号」から載っていますので、0号をご覧ください。ただくと発足当時の雰囲気分かると思います。是非、ウェブサイトをご覧ください。  
([www.charanporanusa.com](http://www.charanporanusa.com))

チャランポランの会  
発起人  
鳥居 欣一



## 目標のかわら版10号達成

会では、交流会、川柳大会、ゴミ拾いなどの活動をして来ましたが、コロナ禍で思うようにできなくなり、返す返す残念に思っています。今号（10号）まで3年余りでしたが、愉快な仲間と共に活動できたことを本当に良かったと感謝しています。目標の10号が達成できたことは、みんなが「無私の心」で事に当たった結果とと思っています。雲田さんが、途中で急逝してしまい、どうなるかと危惧しましたが、鶴亀さんの指導力のお陰で当初の目標を達成することができました。また、北岡さん、入江先生、その他多くの寄稿者が、「かわら版」に華を添えてくださいましたこと、川柳グランプリでは、16代尾藤川柳師が自費で参加してください、応援してくださいましたこと、新春号に武藤ロサンゼルス総領事より素晴らしい寄稿文を賜ったことなど、大変嬉しく、励みとなりました。そして、多くの愛読者の皆様から、物心両面のご厚志を頂き本当に感謝の念で一杯です。

## 今後の会への期待

当初の目標であった、今号（10号）をもって鶴亀さんと私は運営委員を退くことになりましたが、土田新会長のもと、新たに宮里勝吉、太田勉さんが加わり引き続き運営されることとなります。皆様、どうぞ、今後とも変わらぬご指導、ご支援のほどよろしくお願い致します。私は、チャランポランの一会員として今後も楽しませて頂くつもりです。

方向性をはっきりしないままの見切り発車でしたが、思いは「喜ばれる喜び」に終始できたことを誇りとしています。最後に、僭越ですが、私から（あくまでも私の個人的意見）今後のこの会に対しての希望を述べさせていただきます。この会は、これからが本番です。

- ① シニアが元気で明るく暮らせるような会の活動を行って欲しい。
- ② 若い世代の範となり、若い人達の役に立つシニアとなれるように協力し合って欲しい。
- ③ アメリカだけでなく、この会を世界に広げて欲しい。遠隔地

に住む人々からの感謝のメールが一杯届いています。

- ④ 営利活動をすることなく、今まで通りの運営を心がけて欲しい。（会費制にはしない）皆様のご厚志が自然と集まる活動内容にして欲しい。
- ⑤ 他の諸団体との協力体制を深めて欲しい。
- ⑥ 会の名前、会報誌の名前は変えないで欲しい。

## 皆様へ感謝

何はともあれ、運営委員の皆様使命感と熱意があれば、この会は永遠に続いていくと確信しています。人生100年時代、まずシニアの皆様が健康を維持することが第一です。「自分の健康は自分で創る」ことです。食事・運動・睡眠の内容を日頃からチェックしておくことが肝要です。同時に、常に好奇心を持ち続けることが「若さ」を保つ原動力になると思っています。

皆様、長い間、ご支援本当に有難うございました。今後のチャランポランの会もよろしくお願い致します。



## 僕の本棚

「武士道解題」—ノーブレス・オブリージュとは—  
李登輝 著 小学館文庫

新渡戸稲造が1900年にアメリカで出版した「BUSHIDO」を基に書かれたこの著書は、現代の日本人必須の本ではないでしょうか。戦後、日本人は全ての過去を捨て今日に至っています。現在の教育制度に「日本人の精神性」を教える科目はありません。この本を読むことによって「日本人の精神性の素晴らしさ」をよく理解できます。大リーグ、エンジェルスの大谷選手が、万人から愛されているのも、正にこの「武士道精神」の発揮に他ならないと思います。台湾人である李登輝氏は、22歳まで日本の教育を受けた方で「自分は理想的な日本人として育てられた」と述べています。李登輝氏の生涯を見れば、活動の基本は「日本人の精神性」の発揮に他なりません。行動がともわない知識は「絵に描いた餅」ではないでしょうか。



# ジャーナリストの目



ジャーナリスト  
北岡 和義

読売新聞記者、国会議員秘書を経てフリージャーナリスト。ロサンゼルスで邦人向け放送局「JATV」を設立。帰国後、日本大学国際関係学部特任教授を経て現在に至る。著書に『13人目の目撃者』『海外から1票を〜在外投票運動の航跡』『政治家の人間力』などがある。

## 「解放」されない

## 非・常民のアメリカ

好きなノンフィクション作家に本田靖春がいる。読売新聞記者の先輩である。ロサンゼルス・ダウンタウンのサード・ストリートにみっちゃんという若い日本人女性がカクテル・バーを開いていた。取材でロサンゼルスに滞在していた本田先輩のお気に入り。

ロサンゼルスに住んだことのある人ならメイン・ストリートと言えはだれもがしり込みするドヤ街でちよつと危険な雰囲気だ。みっちゃんはずっつかい黒人の客同士が喧嘩を始めると「ゲッ・アウト！」と怒鳴って追い出してしまふ。その度胸の良さが気になったのだろう。二人で毎晩のようにみっちゃんの店に顔を出した。

本田記者は金嬉老事件を克明に追った『私戦』や幼児誘拐殺人吉展ちゃん事件の『誘拐』、新聞記者に仕掛けられた検事の罠『不当逮捕』など名著があるが、ぼくは『戦後』という美空ひばりの生涯を描いた書が好きだ。

「だって『戦後』こそ、ぼくらがもともと解放された時代じゃない」本田はよくそう言っていた。「ひばり」というビッグネームをサブタイトルに使った本田靖春の意気軒高であろう。

ひばりの歌は抜群に上手いが、同時にメディア・バッシングにも負けなかった。彼女こそ本来的な意味で「天才的スター」だった。

♪ 右のポケットにや

夢がある

左のポケットにや

チュウインガム

亡くなった今こそひばりは「昭和の歌姫」と崇められるが、一時の「ひばりバッシング」には激しいものがあつた。メディアのいい加減さである。

ひばりの持っている天声の歌声と歌唱力に勝てる歌手はいまい。本田が「ひばり」ではなくて「戦後」をメインタイトルに持つてきた意味の重要な意味が隠されている。本田にとって「ひばり」は「戦後」総体なのである。ひばりの歌は哀しいところがあるけど基本的に明るい。

「青い山脈」のすっからかんの明るさより、はるかにより深く甘く切なく歌う。ひばりは歌う。

♪ リンゴの花びらが、

本田靖春は「時代」を抉るように書く。「事件」を切り開くように書く。そして・・・そこに解放された「戦後」が描かれている。

### ぼくの戦後

ぼくは1941（昭和16）年12月15日の生まれだが、日米戦争が始まって1週間後、あわて

てこの世に顔を出した。

以降、1945年8月15日、ポツダム宣言を受諾して敗戦、9月2日戦艦「ミズーリ」甲板上で降伏文書に署名して日米戦争は終わった。

連合軍が参加した戦争が終わった。日本は世界中を敵に戦つたのである。

言い換えればこの日「戦後」が始まったのである。ぼくは「ミズーリ」がサンフランシスコ港で現役復帰した時、サンフランシスコまで出向き、オペラハウスを背にスタップに語りかけた。若い連中は「戦艦・ミズーリ」の歴史的意味をよく知らなかった。

そしてぼくの「戦後」が始まった。

きょうだい7人に父方の祖母が生きていた。9人の大家族だった。インドネシアのバンドンの駅長をやっていた親父が帰国できたのは1946（昭和21）年。親父は軍人でなく軍属だったから早く帰国できたのかも知れない。この年5月10日、電報が来て、帰国を知る。

親父は帰国後、国鉄に再就職する運動を始め、ぼくが小学校になったころ、愛知県の国鉄・弥富駅長に復帰できた。金魚の産地である。親父は自分の年齢を考え、

国鉄を辞めて小さな新聞など小荷物運送会社に再就職した。名古屋駅の正面屋上に設置された電光ニュースという当時はニューメディアのはしくれだった。親父は原稿を書き、営業にも歩いた。

この時、鉄道官舎を出て三重県四日市へ移転した。富田浜という海水浴客で賑わうリゾートだった。今は「海水浴場」は公害で死んだ。最近の「魚は油臭いな」と言い始めたのがこのころだ。

1950（昭和25）年6月25日、北朝鮮軍が戦車で中立線を越え南下、朝鮮戦争が勃発した。

これに対し日本に駐留していたマッカーサーの米軍が介入、朝鮮戦争は休戦となった。今も北朝鮮と米軍は戦争状態にある。

1959（昭和34）年9月26日、伊勢湾台風が高潮ともに伊勢湾沿岸を襲い、死者・行方不明者5098人が亡くなった。ぼくが高校3年の秋だった。今も台風史上最大の犠牲者を出した。ぼくの家も床上浸水となり、街全体が水浸しとなった。高校の友人が一升瓶に水を詰めて見舞に来てくれた。嬉しかった。

翌年4月南山大学に入学、60年安保を迎える。樺美智子さんがデモ隊と警官隊のみみ合いに巻き込まれ死んだ。鳥肌が立った。その衝撃は今も忘れない。

このころ四日市公害が酷くなり、社会問題となってきた。1964（昭和39）年、読売新聞記者となった。アジア初のオリピックの年だった。

この時までぼくはまだ学校の教師になるつもりだった。新聞記者はあくまで腰掛のつもりだった。横路孝弘代議士（日本社会党）に誘われて、読売を辞め、国会へ行った。ちょうど社会党が凋落を見せた時代だった。

社会党は墮落し、政権を取るような気概がなかった。人材も薄かった。横路に「辞めさせてほしい」と告げ、フリーのジャーナリストに戻った。『中央公論』や『潮』、『朝日ジャーナル』などで書き始めた。メディアに戻ったのである。フリーは楽しかった。

『飛鳥田一雄』論を書いた時点で海外に出ようと思った。人生長い。数年は海外で暮らすのも悪くないな。独り勝手にそう考えた。

## アメリカへ

太平洋を越えたのは1979年9月20日。台北発の中華航空だけが成田から隔離されたように羽田発着だった。ホノルルでいったん降り、メインランドに向かった。白いテントがターミナルだった。

ガーデナのビジネス・ホテルに

チェックインした。歌手の五月みどりが経営していた。隣のスパイで缶ビールを買いごくりと飲んだ。こうしてぼくのアメリカ生活が始まった。

ビザでトラブルとなり家族と一緒に入国できなかった。やむなくぼく独りで入国した。

アメリカという国家との付き合いが始まった。日本人ばかり20数人の新聞社だったが、冷たい社会だった。誰一人助けてくれな

い。ぼくは闘志を燃やした。入社して4日目、モントレールパークという日系人が多い住宅で白昼、日本人妻が殺された。犯罪社会の凄まじさを実感した。

夫は保険代理店のセールスマン。ぼくは毎日モントレールパークへ日参した。通訳に同行してくれた女性はほとんど役に立たない。取材経験がないから無理だ。

ぼくは熱心に事件を調べ始めた。と、事件担当する刑事が二人近づいてきた。二人とも上背のあるいかにも警察の刑事といった雰囲気だ。こうなればしめたもの。お互い情報交換し始めた。

妙な噂が日系社会に流れ始めた。被害者の若妻は犯人と面識がある、というのである。

モントレールパークの刑事も身を乗り出してきた。

しかしぼくが務める週刊紙は経

済ニュース中心の経済情報だ。いつまでも殺人事件に拘っているわけにはいかない。ぼくは編集部長、毎週の紙面を埋めなければいけない。

事件は解決の兆しを見せず人々の関心も遠のいた。

## 末期ガン

ジャーナリストとして、アメリカに27年近く住み、ぼくは帰国した。

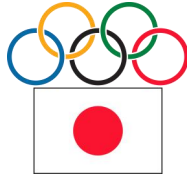
肝臓にガンが発見されたのは2017年12月。ステージ4の末期ガン。医者は余命3カ月、長くても6カ月くらいと云ったが、実感は沸かなかった。治験治療を始め、抗ガン剤など様々な治療をしてきた。しかし、「ガン」＝「死」という既成概念から抜け出すことから（自分の治療が）始まると考えた。

3年半が過ぎた。そして、ぼくはまだ生きています。

2019年7月、末期ガンをかかえ、講演のため、ロサンゼルスへ飛んだ。そこで、ぼくは「死ぬまでしっかりと生きる」という心情を語った。

そして、これからもぼくのガンとの共生はつづき、「ぼくは死ぬまでしっかりと生きる」。





# 2020東京オリンピック 半田俊夫

この夏、"2020東京オリンピック"には沢山の感動と勇気をもたらした。テレビで連日歓声を上げながら真夏の日本選手の熱い活躍を応援した。選手達はみな若者だ。日本そして世界の若者達の活躍は素晴らしい。日本選手は競技後のインタビューで皆が好成績の喜びと同時に感謝の言葉を口にした。昨年来、選手達は日本国内で五輪開催が過酷にも一年延びて、しかも

開催反対の運動もある辛い環境の中で黙々と苦しい訓練を続けた。そして好成績に輝いた。全力を出した選手が感極まって泣く姿に僕が目も潤んだ。生命の躍動を讃歌するのがオリンピックだと感じた。

無観客の開催となったので多くの日本人と同じく家でテレビのチャンネルを切り替えながら楽しむことになった。日本にいとNHKを始め民放各局が一日中、朝から深夜まで、日本選手の活躍を追ってたっぷり日本中心の報道をするから(他国選手が活躍の競技

は余り見れないが)日本国民の一人として嬉しく有り難く満足した。

どの国のテレビも自国の選手中心に追うから、米国に住んでいた時は主に米国選手の報道ばかりで日本選手の活躍は余り見れなかった。在米の日本語放送は一局だけでリアルタイムの編集は少なくビデオ中心の編集版が多かった。

オリンピックで日本選手の活躍を思う存分見れたのは東京に居た五十七年前の昔、日本初開催となって日本中が燃えた一九六四年の東京オリンピック以来だ。今でも覚えているあの時の名シーンの幾つかを脳裏の白黒画像で懐かしく思い出しながら、現在はカラーで且つ大型画面のテレビ中継を見ながら半世紀以上の時空の流れに感慨を覚えた。東京で開催されたオリンピックを人生で2回見る事が出来たのは幸せだ。次にオリンピックが東京に来る時は孫世代が楽しむのかな。

日本の金メダル27個(これは世界第3位)を含め獲得メダル総数は58個でどちらも日本史上最高だ。自国開催でアウェーでない有利さを考えても欧米やアフリカ系の選手に比べてどう見ても身体的に小さく細い日本人選手はよく頑張った。メダル獲得数で日本より多いのは米国と中国だけだが、人口は米国が日本の3倍、中国は11倍と圧倒的に多く、人口比で考えると日本のメダル数の方がずっと多くなる。日本は経済規模で世界第3位の大国だがスポーツ面の活躍も悪くない。メダルの数に拘ってはいけませんがこの成績を出すために日本選手たちがどれ程の努力を重ねたかと思うと熱く誇らしくなる。

スケートボードに見られる日本の十代前半つまり中学生前半ほどの幼い選手まで含め若い選手の台頭は目覚ましく頼もしかった。幼い位の若さの彼らの中には今後も複数回のオリンピックで続けて活躍が見込める

選手もいて楽しみだ。自分とはあつ何回のオリンピックを観れるのか分からないが沢山見るぞという気持ちになるし、沢山応援し続けたい。



最後に、国家負債がGDPの2・6倍にもものぼる日本で、無観客つまり観客収入ゼロで開催したこのオリンピック、開催による巨額な財政のツケが都と国にのしかかって来るので、その後始末は長期の年月を要する事はよく認識しておく必要がある。ただ日本の国家債務は多くの他国と異なり対外債務ではなく国内債務であり、五輪インフラも残った、そして世界一の対外債権国として苦勞しながらも国と国民が長期にこなして行くと期待し、また願っている。





# B級グルメ食べ歩記



宮田 慎也



## Conrad's Mexican Grill



376 W.6th St.  
San Pedro CA 90731  
☎ : 424.264. 5452

再開発が進み目覚ましく綺麗になっているダウンタウンサンペドロ。この地域はメキシカンレストランの激戦地です。中でも「Conrad's Mexican Grill」は価格はB級でも味はA級のおすすめレストランです。

Pacific Ave.から6th St.を海に向かって下って行くと左右両方にレストランが連なる通りとなります。千福寿司とKo-Ryuラーメンに挟まれているのがなんとも不思議な感じです。赤い傘の素敵なテラス席で召し上がるのがおすすめです。TACOS、エンチラーダ、カルニータス、セヴィエ、ナチョスなどの代表的なメキシカン料理はもちろん美味しいのですが、ヴェジタリアンメキシカン料理、モーレ（チョコレートソース）、それに加えるロモソルタド、チョウファなどの代表的なペルー料理もありますのでお試しください。今回はシーフードメキシカンを中心にご紹介いたします。因みにワインの持ち込み代は無料です。

### ■ Mexican Street Corn \$6

ローストしたコーンにアイオリチーズソースとチリパウダーで味付けしてあります。コーンの美味しさに病みつきになること間違いなし！必ずご注文を！



### ■ Seafood Paella \$14

(海鮮炊き込みご飯)



貝類、えび、イカ等の海鮮がワイン、サフランで炊いてあります。

### ■ Fried Snapper \$16

(イズミ鯛のから揚げ)



皮も身も美味しいです。量もありますよ。付け合わせもいいですね。

### ■ Ensenada Ceviche \$11

白身魚、エビ、タコ、すべてが新鮮で味も良く、とても美味しいです。量もたっぷりあるのが嬉しい1品です。



### ■ Seafood Soup \$14



海鮮のたっぷり入ったスープ。ペルー料理の感じがします。海鮮のだしが良くできて美味しいです。

このあたりは古い建物をうまくリモデルしていて雰囲気が良く、食後にブラブラするのも良いでしょう。2ブロック先はリトルイタリー地区でイタリアレストランが並んでいます。是非一度、ダウンタウンサンペドロにお出かけ下さい。



# 自分史のすすめ

高橋 誠



「人生100年時代」と言われるようになり、長生きする人が増えたい  
ま、セカンドライフや人生の終わりの時期をよりよく過ごすための終  
活が注目を浴びています。この終活に活用できるのが自分史です。こ  
こでは自分史とは何か、自分史の魅力やメリット、作り方について説  
明します。

## 自分史とは何か

自分史というと、人生の終わりが近くなった時期に、自分の人生を文章にまとめて本にするというイメージをお持ちの方が多いと思いますが、自分史はいつ作ってもかまいませんし、必ずしも本にしなければいけないというものでもありません。自分が経験してきた出来事を年表にしてもいいし、これまで撮りだめた写真をまとめてアルバムにするのもいいでしょう。パソコンやスマホを使えば、簡単に動画の自分史も作れます。家族や友人にインタビュースしてもらって音声で残すのもいいでしょう。自分の歴史をなんらかの形で表現したものが自分史です。

## 自分史の魅力とメリット

自分史のメリットとして、まずは、自分の生きた証を残せることがあります。自分が経験してきたことを自分史として形にすることで、自分の家族や親戚、友人たちに、自分の生きた軌跡をきちんと伝えることができます。

また、自分史を作ることで、自分がしてきたことを客観的に見つめ直し、自分自身をより深く知ることができます。自分の人生の流れが見えてきて、失敗や挫折した経験も、その後の成功や幸福につながっていることがわかれば、失敗を恐れず、より前向きにチャレンジできるようになります。

新たな目標や生きがいを見つけることもできます。自分史を作る過程で子どもの頃に好きだったことや、やりたかったことを思い出してみれば、親から止められたり、周りの目を気にしたりして、いつしかあきらめてしまったことも、今ならできるといふことが見つかるでしょう。

生きがいや目標を見つけて、新たなチャレンジをするときに、自分自身を他の人たちにアピールする必要が出てくることがあります。そんなときにも、自分史をまとめておけば、そこから自分のアピールポイントを見つけられます。

また、自分史を作るときに、過去のいろいろなことを思いだ

そうとすることが、脳にとってよい刺激になるので、認知症の予防にも役立ちます。

自分史を作ること自体がクリエイティブな作業であり、表現する楽しさ、自己発見の楽しさなどいろいろな楽しさがあります。例えば、自分史を作っている昔の友達や知り合いの名前を思い出したら、今ではネットで検索して見つけることもできるので、連絡をとって久しぶりに会い、思い出話に花を咲かせるのも楽しいことでしょう。

高橋 誠 (たかはし まこと)

メディアプロデューサー  
大手出版社の編集者を経て、現在は出版やネットなどメディア関連の企画制作を手がけている。プロデュースした本に『日英蘭 奇跡の出会い』（鶴亀彰著）、『豆腐バカ 世界に挑む』（雲田康夫著）など。



## 自伝の作り方

自伝を作る場合、形式や表現方法はいろいろありますが、ここでは主に文章を中心とした本にまとめる前提で、作り方の解説をしていきます。

まずは、自分がいつごろ何をしたかをまとめた人生年表を作ってみましょう。自分の過去について思い出したことを書き出してみてください。といっても簡単には思い出せないものです。どうやって思い出せばいいのか、そのやり方を紹介します。

### ●自分自身に質問してみる方法

一番古い記憶は何か、一番うれしかったことは何か、悲しかったことは何か、自分の転機となったことは何かなど、自身に質問を投げかけてみて、思い出したことを書き出してみましょう。

### ●キーワードから思い出す方法

例えば、学校時代のことを思い出すなら、先生、行事、友達、クラブ活動、科目などいろいろ関連する言葉をあげて、それらの言葉から連想して、思い出してみよう。

### ●社会の出来事や流行から思い出す方法

ネットで検索すれば、何年にどんな出来事があったか、どんなものが流行していたかをまとめた年表などを見つけることができます。それらを参照してみれば、そういえばこの映画は友達と見に行ったとか、この曲は恋人とドライブに行ったときによく聴いていたとか、いろいろ思い出せるはずです。

### ●素材や資料を集め構成案をつくる

人生年表の作成と平行して、自伝をまとめるときに素材や資料となりそうなものも集めてみましょう。写真アルバムや文集、日記、手帳などが思い出すための材料になります。

ある程度年表がまとまり、素材や資料も集まったら、構成案をつくってみましょう。本でいう目次をつくるつもりで、章の見出しや各章に入る内容の小見出しを考えてみると、わかりやすい構成案をつくることができます。

### ●構成案に従って書く

構成の仕方については、自分

史の場合、代表的なものは、生まれてから現在まで順を追って書いていく時系列型になります。必ずしも時系列にこだわる必要はありません。旅行記や趣味の記録などテーマを絞ったり、学生時代だけにするなど時期を絞ったり、エッセイとして自由にまとめる形でもかまいません。

構成案ができれば、内容として足りないところもわかってるので、それを補うために、新たに取材したり、資料を集めたりしてみよう。関連する場所に改めて行ったり、昔の友人や知人に会って話を聞いたりするのも楽しいものです。

あとは構成案にしたがって書き進めていくだけです。時間がかかってもかまわないので、ぜひ一通り書き終えることを目指してください。また、書いてから時間をおいて推敲することで原稿がよくなります。

### ●原稿をまとめる

原稿を本にする場合は、ネットの印刷製本サービスなどを使えば数十冊でも数万円でつくれるので、そういったサービスを

利用してもいいでしょう。お金に余裕があれば出版社の自費出版サービスを利用してもいいし、お金をかけたくなければ、とりあえず自分でプリントしたものを綴じてみるでもいいでしょう。

きちんとした本をつくるのはハードルが高いという方も、ぜひ自分の過去の出来事を思い出して、書き出してみるところから始めて、自分のやりやすい形でまとめてみてください。ここまで述べてきたように、自伝にはいろいろな魅力やメリットがあるので、ぜひ自伝を作って、残りの人生を自分らしく楽しく生きるためのツールとして活用していただけたらと思います。



## アイデンティティを意識する

## 日系二世の自分史

中森雅実

自分の人生は、パズルで一個一個のピースを埋めながら青写真を描いている。その中で自分のアイデンティティは何か、を意識してきた。真空管からチップへと技術革新が時代の流れとなり、自分のアイデンティティはこうした環境に合わせて現在に連なる。

日本で義務教育、  
米国で社会人

自分は日系人としてカリフォルニアで生まれ、子供時代を4年間収容所で過ごした。終戦後、NO・NO組の両親に自分の意思を無視され、広島、江田島に連れて行かれた。小、中、高校を卒業するまで、丁度12年間を日本で過ごし、日本人かアメリカ人かを問われる環境の中で、自分はアメリカ人である

というアイデンティティを持つようになった。根拠のない知識の中で、真珠湾攻撃、広島原爆についての質問や議論に、アメリカが正しいと言っ

## アメリカに帰る

終戦後に高校を終えて、自分の意志で人生の分かれ目の決断をし、貨物船に揺られ太平洋を横断してロサンゼルスに帰ってきた。その晩、隣の日系の叔母さんとこれからの進路を話している間に、いつ



の間にか自分の人生論が始まった。「貴方がいざれ庭園業を始めるならば、ピックアップを買わないか」と、何もできない自分を見て、強く勧めてきた。工業高校を終えたのに草刈りか、と心は暫く揺れ動いた。幸いロサンゼルスの高校で泊まり込みのキルチンの仕事を見つけた。そこで大学受験の勉強をしている生徒に数学を手伝っているうちに、自分の能力ならば大学にも行けるのでは、と希望の光を見いだし始めた。

## 陸軍に入隊

アメリカに戻り若者として兵役が待っていた。陸軍情報部の予備兵として志願をして基礎訓練が始まる。日本人は

自分一人で肩身が狭くなり、早速'Buddha head' Banana、Pineappleなど、ニックネームを付けられ子供扱いだ。何故かわからないが、小学から高校まで日本で学び、育った自分は日本人としての生き方の感覚が備わっていたのである。

日本人だという誇り、が無意識に頭を持ち上げた。ある突発的な事故があり、訓練中に怪我をした。軍医に、明日の最後のテストを棄権するよう言われた。無理をするか一生身体障害者になる可能性があるかとのこと。それは28マイルの行軍に参加することである。棄権をすると自分の基礎訓練の繰り返しをしなければならぬ。そのうえ、高得点の記録達成寸前の自分の隊に影響を与える。隊長に公傷での欠席の可能性を申し出たが、戦争に欠席はない、と言下に拒否された。部屋を出るとき軍曹に呼び止められた。

「Nakamori、君は日本人では

ないのか？自分の知っている日本人の部隊は決して『NO』とは言わないぞ！」強い口調が耳に響いた。当日、自分は意を決して行軍に参加した。倒れこむようにして、辛うじて行軍を終えることができたのだ。何が自分を行軍に行かせたのだろうか？確かに日本人として誇りは自分の胸の中であつた。でもそれだけであつたらうか？

### 大学を卒業、

### 日米間での仕事

仕事をしながら会社の援助でUSCの修士課程を終えた。その頃はアメリカ人としての自覚は明確で、ものの見方や行動の仕方が身についていた。大学を卒業後、国防省の情報システム関連のNorthrop Grummanに就職し、情報機器の開発に携わった。次の人生の転機が訪れる。Macro Data（半導体テスター開発・販売）の東京支社所長として東京で勤務する話が出てきた。望んでいた日米間のビジネスの経験を得るためのチャ

ンスと思い、申し出を受け入れた。2年間の滞在で日米間のビジネスの仕組みを、嫌になるほど経験をさせられた。まさか、ビジネスのやり取りが飲み屋で行われるとは想像もしていなかった。ノミニケーションでお互いの気持ちを理解するのだ。日本人ビジネスマンにならなければ、日本でのビジネスは成り立たない。同僚とは、毎日午前様のお付き合いになり、自己主張の前に空気を読むことや協調性が大切であることなど、日本人の仕事を学んだ。

### 会社の立上げ

こうした経験から、アメリカの会社は日本での訴訟には勝てない、と実感した。特許庁に敗訴して頭を下げるのは御免こうむる、傷心の気持ちでアメリカに帰ってきた。その後、縁があつて友人とIT会社を立ち上げた。業界初の光通信装置である。幸いにして日本の鉄鋼企業から、IT業界に進出するための支援を望む話を実現し、その運営や

共同開発に携わった。日本企業とIBMとの訴訟事件が発生したとき、自分はアメリカ人ではなく日本人だとアメリカ企業より指摘され、肩身が狭くなるようなこともあつた。自分のアイデンティティが揺れた。そして、自分は心筋梗塞に襲われ、三途の川で、「もつと世のために生きなさい」と追い返された。これは天からの指令であつた。

### 第二の人生、

### コンサルタント会社

これまで日米間で仕事を続けていて思ったことは、技術的にも、プロジェクト管理においても、日本は、アメリカと比べて数年は遅れていた。そこで、教育、コンサルタント会社を設立して研修、セミナーを日本で始めた。第二の人生の始まりである。幸いには自分は、日系二世であり、アメリカ企業の経験者として日本企業で受け入れられて、アメリカの情報技術、管理養成の研修を始めた。日米の若者の違いを伝えるために、必要

に応じて自分のアイデンティティはアメリカ人であることも強調した。ある日、悲しい連絡を受け取った。アイデンティティを語り合った友人が、自らの命を絶つた。会社が倒産したのだ。自分に相談をしてくれなかつた寂しさ、日本人という誇りか。友人を失った自分の心はすさむ。馬鹿野郎と、今でも自分に呟くこともある。

### 新たな自伝史

今はパンデミックにより日本行きが難しくなり、すべての事業をやめて新たな自伝史を構築することになっている。ロサンゼルスの日系団体、木鶏クラブや一期会の会員になり、日系二世としての意識を感じながら、自分のアイデンティティを明確にするために人間学を学ぶ。自分はこれからの様な人生を歩むのか。世のため人のために、自分の「青写真」を、魂に残したいと思っている。



## 父の塩むすび

ローペス文子

1932年（昭和7年）東京で4人弟妹の長女として生まれ、私はお父さんで父の愛情を一身に受けて育ちました。3歳の時に撮影した七五三の祝いの写真には無意識にしっかりと左手を父の膝に置いていた姿が写っています。東北生まれで「めし」「ふる」「ねる」位しか言わない無口な父に暖かく目守られて社会人として成長しました。

ところがこの緊密な父娘関係に大きな変化が起こってしまっただけです。1954年私が22歳の時、当時日本に駐留していた米国軍人と友人の紹介で知り合い、父に結婚の許可を願ったからでした。彼は既に3年間の日本駐留を終え帰国命令も出ており日本を離れる前に東京見物をしたと願い、たまたまその案内役になったのが私でした。

彼はとても澄んだ眼をしていました。メキシコ系米人で髪も

黒、体型も日本人男性と余り変らず違和感無く会話にも探究心誠実さが読み取れました。私は一時期、電信電話局で英語の交換手勤務の経験があり、英語での意思疎通には余り不自由はなく東京駅で待ち合わせて都内の観光名所を案内しました。

それは運命的な巡り逢いでもありません。彼は私と結婚する為に帰国を伸ばしてくれる様に軍に嘆願し、6ヶ月の延長が認められ、その結果滋賀県大津市に転勤となりました。当時は米国軍人と日本女性の結婚手続き許可には6ヶ月かかりました。

私と彼との結婚に父は烈火の如く怒り大反対！戦時中の「鬼畜米英」の記憶も残っていたのでしよう、私は結婚の手続きを完遂する為に家出を敢行。朝仕事に行く儘の服装で、お弁当箱一つだけ持って大津市に向かいひっそりと隠れ住みました。

ところがどうして私の居場所が判ったのか地元の警察官が突然訪れ「貴女の父が倒れた、直ぐ帰れ」との事。急遽、家に帰り眼にしたのは脳溢血で倒れた父の変わり果てた姿、気丈な母もすっかり落ち込んでおり弟か

らは激しく糾弾されました。私は生まれて初めて父の髭を剃った時、言語も儘ならぬ父の眼から涙が横にスーと流れ落ち枕が濡れ私も号泣しました。

父母からの叱責は有りませんでした。しかし父の状態を見て結婚を躊躇う私に母は「自分の信じる通りにしなさい、家の事は心配しないで」と言ってくれました。

軍の方々と牧師さんの後押しも有り異例の速さで神戸の米国領事館で結婚が受理され1956年11月米海軍の船で横浜港を出港、私には誰も見送り人は居ませんでした。船がサンフランシスコの金門橋を通過した時の感激、未知の国への希望と怖れは今でも鮮明に脳裏に焼きついております。

結婚後3年目に1人息子が生まれ4歳になった1963年初めて里帰りしました。7年間の勘当も解けたのか父は初孫を可愛がってくれました。そして帰りの当日、父が「帰りの飛行機の中で食べろ」と手渡してくれたのが塩むすびでした。明治生まれでお湯さえ沸かした事の無

い父が太い指で始めて握った塩むすびは、くち下手な父の愛情の表現だったのです。その夜、父は布団を被って泣いていたそうです。

爾来、渡米65年間いろいろ有りましたが今は安穩、感謝の日々を送らせて頂いております。

## 鳶の子埴塙の国に

熔けきらず

文子



## 金婚旅行

### 世界一周クルーズ

井出英雄

「あなたが行かないなら私一人でも行きます」

私が現役時代に「リタイヤしたから世界一周クルーズでも行くか」と漏らしたことを女房殿はハツキリ覚えていた。「ちょうど金婚式だし、どう？」家内が言う。サラリーマン後半の二十三年間を米国で共に暮らし日本へ永住帰国後数年経過した頃だった。私は懐メロのおやじバンドで月一〜二回の演奏依頼があるし、趣味のサークルやゴルフなどリタイヤ生活は快適で、今クルーズに行かなくとも、とナマ返事を繰り返す。そんな煮え切らぬ亭主への強烈な一撃が冒頭の宣告であった。考えてみれば、地方都市の狭い生活圈で「金婚旅行に奥さん一人で行かせた亭主」というレッテルを貼られて余生を送るのはつらい。同意する以外なかった。

選んだのは2018年飛鳥Ⅱ（乗客800人、乗組員470人）

期間は百二日間。

全体の費用は、バルコニーなしの五百万円台からスイートの三千

万円台まである。私はバルコニー付きの一人

六百八十万円台を選んだ。逆に旅上手の人はバルコニーなしの部屋

にして、くつろぐ時には広い共通ロビー（無料の飲み物、ケーキサービスあり）を利用し、節約した分をオプショナルツアーなどに充てるともいわれる。

未経験の方々が心配するのは、まず三カ月も退屈しないで過ごせるか、ということ。心配には及ばない。文化芸能音楽都市に住んでいると考えればよい。毎夜開催されるショー以外に、著名人の講話、短歌や手芸の趣味の会、プロの写真の講座、落語、映画、社交ダンス、カラオケ、麻雀、カジノ、講師付きの囲碁、ティーチングプロによるケージ内でのゴルフレッスン、工夫を凝らした数々のゲームなど。また、個人的な趣味の会を立ち上げることも可能で、私は「懐かしい歌を歌う会」に参加し、フルートやオカリナで歌の伴奏をして40人前後の人達



と充実した日々を送り、最後にステージで発表会まで行かない、仲間と満足感を味わうことが出来た。その中の数カアップルとは今も交流が続いている。

さて、普段気ままに暮らしている夫婦が、狭い船室で三カ月。争いごとなしで過ごせるか、は大きな課題だ。そこで我が家では掟を制定した。

- 互いに、就寝時はいびき防止の口テープを貼る。
- 部屋の温度設定は、寒がりの私が妥協し、長袖ジャマで就寝。
- 三度の食事は合流し、他の時間は自分の好きな活動をする。
- 張り切り過ぎない。
- 疲れたら休む。

これで大過なく100日を切り抜けた。

乗船して驚いたのは、車椅子の人や目の見えない人が想像以上に多いこと。船の診療所には医師が二人乗船している。しかし乗船中にヘリコプターで緊急搬送されたり、亡くなる人も数人出たのである。言い換えれば命を懸けても乗船を望んでいるとも言える。それでも乗りたい、とは一体なんだろう、と考えさせられた。話を聞くと「自宅で体の不自由な主人の面倒を見るのは大変。ここでは車椅子は押してくれる、ウェーター

（ほぼフィリピン人）は名前や好みまですぐ覚え本当に親切にしてくれる。息子や孫などよりよっぽど大切にしてくれる」とのこと。

クルーズ船は基本的に夜間に航行し早朝に次の港に入り、日中は上陸・見物するパターンを繰り返す。有料ツアーか船会社のフリーバスで街に出て自由行動するか、船に居残るか選択できる。景色、人種、言葉、文化が居ながらにして変化して行く。食事は一流シェフが何を出してくるかの楽しみはあっても、自分で作る心配のない非日常。これが家内にとってはたまらない、と。しかし楽しい日々も終わりが来る。

せっつかれての世界一周クルーズではあったが、家ではめったに見られない嬉々とした家内の表情からも、自分の足で動ける内に行って良かったと心底思う。我々に子はいない。喧嘩したら際限がない。離婚だって出来たはずだ。それが、いつの間にか50年。人生の忘れ得ぬ、めくるめく1ページとなった。ただ「クルーズ病」という病気があると聞く。この病にかかると「クルーズを繰り返す」ことになるらしい。



# 私のバケツトリスト



「バケツトリスト」とは死ぬまでにやりたいことを書きだしたもので、2007年の映画『The Bucket List』によって広がりしました。余命6ヶ月を宣告された2人の末期癌の患者（ジャック・ニコルソンとモーガン・フリーマン）が、やり残したことを紙に書き出しリストを作り、それを実現するために冒険に出るというストーリーです。『A list of things that one would like to do before kicking the bucket』死ぬ前にしたいことリスト、それを映画の中の造語で **BUCKET LIST** と呼びました。

## 所持品の整理

- 断捨離／70代女・78男
- 所持品の整理／70女・78女・86女・88女・83男
- 本の整理／80女、80代女・86女・88女
- 写真、手紙の整理／70代男・70代女・76男、78女・80代2人・81女・女88男・86女・90代女・91女2人



## 墓

### リビングトラスト

- 生前葬儀／74女・84女・88男
- 墓を購入／83男済・70代女済・82女済
- 生命保険の解約／74女
- 日本の墓を米国へ移す／78女
- 墓参り／50代男・70男・70代女・80女・85男
- 子供や孫と墓参り／88女・88男・91女
- リビングトラスト／70代男済・70女・70代女済・78女済・78男

## 恋

- ガールフレンドを探す／73男
- 快適なパートナーを持つ／70女済
- 夫婦で燃える恋を続ける／70代女
- 初恋の人に告白／70代女2人
- 燃えるような恋／78女
- 初恋の人を探す／78女
- 良い人を見つけてひと花咲かせる／76男



## 健康・運動

- 健康を保つ／88男
- ジムに通う／70代女
- 健康食の調理／70代女
- 元気に120歳を迎える／76男
- 専属トレーナーを持つ／85男
- ピンコロで旅立つ／70代女
- コレステロール値を下げる／70代女
- 運動を続ける／60代男・70代女
- 太極拳のクラスを後十年継続／79男
- 指導者を5年以内に育てる／79男
- 世界中に道場を開く／83男
- ゴルフで200ヤード以上飛ばす／70代女
- テニスを続ける／81女



## 感謝

- 謝らなければならない人に会いに行く／70代女
- 次世代に恩恵の思いをEメール発信／70代女済
- 大切な人に感謝「ありがとう」を言う／70代女
- 一日一善を行う／85男
- 両親に感謝の心で過ごす／81女
- 他人に良いことをする／73女
- 日系社会へお返し／92男
- お世話になった病院や施設の方と会食／60代女
- お世話になった方に旅行をプレゼント／80男
- お世話になった人を米国へ呼び戻す／92男済
- お世話になった人へお礼／60代女2人・67男
- 70代女・78女・80代女・90代女



## 家族

- 夫婦で故郷を訪ねる／88女
- 実母と夫の肖像画作成／70代女
- 家族の幼少期の肖像画を描く／82女
- 結婚／74男済・77女済・83男
- 再婚／79男
- 出産／77女済
- 家族の誕生日に皆で歌う／70代女済
- 家族旅行（バリ島）／70代女
- 家族でまる1カ月旅行／50代男
- 家族と世界1周旅行／67男
- 家族でハワイ旅行／73女・92男済
- 家族で日本旅行／73女・92男済
- 家族でドイツ・ニールランド／73女済
- 孫を故郷へ連れて行く／78女
- 孫に日本語を教える／70代女
- 孫の大学卒業を見る／79男
- 孫を日本へ連れて行く／88女
- 孫の学資積み立て／70代女
- 孫の高校卒業式に参加／73女
- 孫の結婚式に出席／70代女
- 孫が18になったら新車をギフト／70代女
- 子供の成長記録と家系図を子供に渡す／77女



## 支援

- パラリンピック基金の創設／73男
- シニアのデイケアをつくる／91女
- アフガニスタンの女性を助ける／70女
- 多額の寄付／67男
- 貧困な国・地域への援助／67女
- 高齢者への支援／76男済
- ボランティア活動の継続／70代女
- 南加日系社会に非営利の高齢者施設の再建／80男
- キリスト教徒とイスラム教徒の理解と融和プロジェクト推進／80男





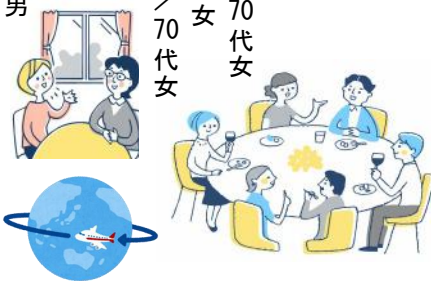
## 趣味・その他

- 野菜畑を持つ／70女
- トマト栽培の上達／80男
- 釣りに行く／81女
- パンを焼く／80女
- キルティングクツションの完成／78女
- 編み物を贈る／88女
- 大谷翔平のサインボールを貰う／80代女
- 焼失した生家の事実確認／70代男
- 富士山登頂／73女
- 毎年登頂／60代男
- L E L A の存続／85男
- 米国市民権をとる／74女
- 記念果樹を残す／77男
- 日本で住み込み夫婦を雇う／85男
- おむすび持参でスケッチに行く／86女
- 父の建築した旅館に宿泊／70代男
- 故郷の子供たちと遊んで暮らす／80男
- 日産フェアレディ400Zを購入／70女
- 英語を上達させる／70女
- スペイン語の上達／82女
- 韓半島の統一／70代女
- レストラン兼カラオケ店をする／79男
- レストラに役に立つ発見／60代男
- 世の中に役に立つ発見／60代男
- ラスベガスに日本街をつくる／71男
- アニマル・シエルターの動物をなくす／60代女
- 日本で小料理屋のセミスポンサーになる／85男
- 運転免許の更新、運転再開／79男・88女
- 食べたいときに「生チラシ」／70代女
- 父と祖父の会社を存続させる／60代男



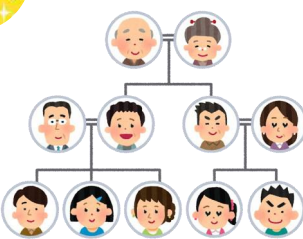
## 交流

- お茶飲み友達をつくる／81女
- 野菜、花作りの人と友達になる／81女
- 短歌、俳句をする人と旅行／81女
- 信頼できる異性の相談相手をつくる／70代女
- 同窓会参加、同級生に合う／60代女・88女
- 第二次世界大戦中のことを同世代と話す／70代女
- 子供の頃の友達と再会／78女
- 同じ趣味を持つ人と交流／70代女
- 昔の仲間と小型飛行機で夜間飛行／70女
- 旧友と再会／77男
- 仲間と食事会／79男
- 週1で持ちよりパーティー／91女
- 友人の夢を叶える／90代女



## 文化・音楽

- 自分の本の映画化／73男
- 本の出版／83男
- 短歌の本の出版／78女
- 歌人になる／78女
- 歌開始の入選／73男
- 直木賞をとる／73男
- 自分の半世紀の出版／71男
- 物語を書く／60代男
- 小説を完成させる／73女
- 妻と一緒に本を出版／80男
- 祖母の残した記録本の英訳／77男
- 美術館に行く／80代女
- 好きなアートの購入／67男
- チェロを上達させる／70女
- 「月光の曲」をピアノで弾く／76男
- バイオリン、ピアノを弾く／60代男
- プロ演歌歌手としてCDを出す／71男
- 「フレディ」のミュージカルの上演／84女
- 蝸牛殻インプラントで音楽を楽しむ／80男



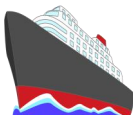
## 自分史・家系図

- 自分史作成／60代女
- 70代女・74女・78男
- 83男・90代女
- 家系図作成／60代女
- 70代女・80代女・85男・88男・91女

## 旅



- マチュピチュ／70女・77女
- ピラミッドを訪ねる／77女
- ペルーのクスコ／70女
- アマゾンへ冒険旅行／50代男
- アメリカ横断／50代男・70女・77男
- 米国インディアンの遺跡／70代女
- 世界旅行／76男・77男・88男半済
- 82女済・90女済・91女半済
- 世界遺産めぐり／60代男
- オーロラを見に行く／70女・73女
- カナディアン鉄道の旅／70女
- 宇宙から地球を見る／71男・78女・80女
- 米国の自然公園／70女
- 超音速旅客機に乗る／76男
- 東南アジア、ロシア、アフリカ／90女
- 米国内旅行／80代男
- ヨーロッパ旅行／50代男・73女
- クルーズの旅／60代女・80代女
- 80代男済・92男
- 日本名所めぐり／60代女
- 日本一人旅／70代女・86女
- 日本一周旅行／70女
- 日本の世界遺産を全て訪ねる／73女
- 浅草観音様にお参り／88女
- 沖縄訪問／80男
- 東北の旅／78女
- 京都観光／79男
- 温泉、お祭りめぐり／60代女
- 日本の家族に会いに行く／81女
- 毎年、母の命日に帰国／76男
- 友を訪ねる旅／77男・78男
- 親戚を訪ねる旅／78男
- 旅で会った子供達との再会／80男
- 日本の田舎道をツーリング／60代女
- インドで象に乗りベンガルトラを探す／60代女



## 家建物



- 家を持つ／74男済・82女済
- 別荘の購入／67男
- 自分の設計した家で暮らす／83男
- 畑のある住居に移る／80女
- 自分好みの家創り／70代2人女済
- 伊豆高原に温泉付き別荘を借りる／79男
- 住みやすい老人ホームに移る／92男
- LAに岡山県人会館を建てる／71男
- エレベーター付きチャランポフ会館建設／76男
- バリアフリーの家づくり／70代女



多くの方からバケットリストへのご協力を頂き、  
ありがとうございました。多数のため、長い文章  
や固有名詞などは省略させて頂きました。



# 終の棲み家

入江健二

死は必ず訪れます。でも、悔いのない毎日を重ねていれば、人生のひとつコマとして死も自然に受け容れられる気がします。たとえ末期ガンとなっても、今はホスピスなどの苦痛を緩和するシステムが、完全とは言えないまでも一応整っています。

死へ向けての悩みはむしろ、そこに至るプロセスにあるのではないのでしょうか？ 発病や怪我や手術のため入院し、退院後は帰宅か、看護ホーム入りか？ 家族に迷惑は掛けたくないが、施設入居の経費はどのくらいか、などと不安・心配の種は尽きません

帰米二世で日本の商社米国社長だった私の義父は、胸部大動脈破裂のため七二歳で急死。俳優・石原裕次郎の場合と違い、緊急手術が間に合いませんでした。私の妻が小学校五年のとき義父に従って家族ぐるみで渡米し苦労した高知県生まれの義母は、脳出血が原因で死去。ただし、こちらは緊急手術が間に合い、七五歳で倒れて以来十五年延命。その十五年間は家族にとって大変でした。一応わが家とサンフランシスコの義弟の家とで交互に世話する取り決めでし

た。が、近くに敬老看護ホームが存在していたこともあって、どうしてもわが家での滞在が長引きました。白人妻との間に子供三人の義弟のところより、日本食が主なわが家を彼女が好んだという要素もありました。

## 義母の死

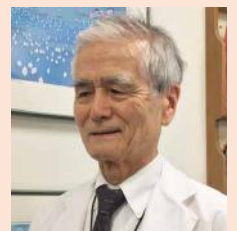
義母の滞在中、妻はよく頑張りました。夫の私から見ても「涙ぐましく」という表現が当てはまるように感じられました。何しろ義母の状態は、緊急手術で生命は取

りとめたものの、右半身完全麻痺。立てず歩けず話せず、という有様。左脳が侵されたため、理性的で我慢強かった人がわがままな泣き虫に。辛うじて食べることはできましたが、よく嘔吐。しかも手術後間もなく腸閉塞を起こし、二度目の緊急手術後には、人工肛門付きの身体に。その世話で、妻は人工肛門用バッグ交換のエキスパートにもなりました。

そんな妻を、私も精一杯助けました。夜中に泣いたり暴れたりすると、起き出してお世話。「お母さん、ボクだつてもう若かアないんですヨ」などと言いつつ。しかし、心理療法士の仕事も抱えていた妻の負担は大きなものでした。義母の滞在が長引くにつれ妻は疲れて苛立ちやすくなり、普段の朗らかな表情も一変（義母延命中、妻は過労のため一回は入院、他の一回は辛うじて入院を回避）。家庭崩壊一步手前の限界に達すると、私は妻を説得した上で「交代要請」の電話を義弟に入れまし

## 入江健二（いりえけんじ）

1940年、東京生まれ。60年、東京大学入学。国立がんセンター、都立大久保病院を経て、71年渡米。UCLAで癌を研究。73年、日系一世対象の「健康相談室」開設。1981年、リトル東京で診療所を開業。



た。義弟の方でも都合が悪いときには、敬老看護ホームのお世話になりました。そんな窮地に追い込まれたとき、私たち夫婦は、安心して義母を預けられる日系看護施設のありがたさを噛みしめたのでした。

しかし、その敬老看護ホームは二〇一六年二月、敬老傘下の他三施設とともに営利会社へ売却されてしまいました。それを知って絶望したかのように、義母は間もなく義弟宅でホスピスケアの下に死去。

## 日系看護施設の問題

ここで突然話がかわるようですが、私たち夫婦もメンバーの「高

高齢者を守る会」が二〇一八年末から半年かけて実施した「日系高齢者施設の必要度調査」について触れたいと思います。調査結果の報告を読んで私が強く印象づけられた三点について先ず書きます。

### ①【日本のケア】

回答者一四七八名は、この手のアンケート調査としては全米で最大規模だったとのことですが、日系二世から五世までと新一世を含む回答者の大多数が、日本的なケアの得られる高齢者施設（施設）の存在（存在）を求めています。

### ②【経済問題】

回答者の殆どが、この国における施設入居費について十分な知識を持っていません。

### ③【認知症家族との同居】

回答者中の二〇九名が、今すぐにも施設での介護を必要とする重度認知症の家族員と暮らしを共にしています。

①の「日本のケア」の内容は、日本食・日本語の通じるスタッフ・日本的な娯楽やリクリエーション・NHKのTVプログラムなどですが、もう一つ大切なポイントがあります。それは「痒いところへ手の届く看護」です。かつて全米一と評価されていた敬老看護ホームでは、居住者がどこか痛く

て呼ぶと、ナースがベッドサイドまで走っていました。その姿を私はよく目撃しました。走らないまでも、居住者が何かの苦痛のため助けを求めると、待ち時間は殆ど0（ゼロ）に等しい状態でした。そのお陰で、欲求不満で叫ぶ居住者がいない、糞尿の悪臭がない、床ずれがでにくく、できてもすぐ治るといった結果に繋がっていました。そうした状況を回答者の多くが見聞していたと考えられます。

②の入居費も重大な問題です。

手術後などのリハビリ期間はメディケア（Medicare）がカバーされます。が、心疾患その他の余病があれば施設滞在は長期化し、入居費は個人負担となります。これは現在のところ一日二〇〇ドル強（病状による差あり）。諸経費を含むと月一万ドル近くに。施設居住が一〇年を越す人も珍しくありません。その支払いで貯蓄が底をつけば、どなたもメディカル（Medi-Cal）に頼らざるを得なくなります。メディカルで安心して居住し続けられる施設が是非とも必要です。そうした切実な経済的側面を、多くの回答者が把握しておられないようでした。

③も深刻な問題です。私の義母には認知症も始まっています。もし彼女が歩けて夜中に徘徊した

りしていれば、家族は困ったと思いません。入居させる施設がなければ、私の家庭はたちまち崩壊したでしょう。南カリフォルニア日系人口は、ざつと十七万八千人（グループ調べ）。回答者約一五〇〇人中二〇九人が家族員の認知症のため家庭崩壊の瀬戸際に置かれているということは、南カリフォルニア日系社会には単純計算で約二万五〇〇〇家庭が同じ状態に置かれています。半分と見積もっても一万を超えます。大変な数です。

### ★ 営利システムの爪痕

この調査で、「安心して老いた家族員を預けられる日系看護施設」の存在を求めた私たち夫婦は、決して例外ではなかったことが明らかとなりました。「子や孫に迷惑を掛けたくない」と思えば、それはたちまち私たち夫婦の行き着く先ともなります。つまり、それが私たちの「終の棲み家」となります。

そういう施設が非営利であるべきことは、売却後に「ケイアイ看護ホーム」と名を変えた元敬老ホームが見事に証明してしまいました。パンデミック中にベッド数三〇〇の同ホームは、営利のため回復途上の新型コロナウイルス感

染者を近隣の病院から集めました（感染者介護への政府償還金は非感染者の四倍）。その結果健康な入居者にも感染。今年前半までに累計感染者二二〇名・感染による死者一一七名の惨状を呈しました（この間の経過をLAタイムズが三月一日詳報）。今のパンデミックが終息しても、変異種や別のウイルスで再び大流行が起これば、営利である限り同じ事態となります。

### ★ 非営利の高齢者施設再建

こうした問題への理解に基づき、私たち夫婦が属する「高齢者を守る会」は運動を続けています。特に、「日系高齢者施設の必要度」の調査結果が発表された二〇一九年九月以降は、旧敬老施設売却への恨みや嘆きを述べ立てることを止め、南カリフォルニアの日系社会に非営利の高齢者施設を再建するという夢に向かって、遅くとも着実な歩みを進めているつもりです。

「かわら版」読者の皆様のご理解とご協力を、誌面をお借りしてお願いする次第です。



鶴亀 彰



# 懐かしさとという宝物

皆さんは『ジジタイムズ』をご存知でしょうか？『時事通信』や『ロサンゼルスタイムズ』はご存知でも、神奈川県秦野市で2007年から発行されているこの新聞は恐らくご存知ないでしょう。発行者兼編集者は浜岡勤さんという現在80歳のシニアです。今まで発行されたのは140回。今年にはコロナのため休刊中ですが、創刊時の発行部数は5部でした。現在は10部程に増えています。読者は勤ジーチャンの6人の孫とその家族達。そうです、『ジジタイムズ』の『ジジ』は『爺々』の意味なのです。ちょっとびり『時事』の意味もあります。

## 「ジジタイムズ」創刊

創刊のきっかけは2007年3月、当時6才の孫の健太郎君が地元で開催された幼稚園児のサッカー大会で奇跡的な逆転シュートを決めたことでした。

健太郎君の活躍を眼にし、感動した勤ジーチャンは可愛い孫達の成長を見守るために、家族新聞を発行し、孫達の出来事を記録しようと決めたのでした。それから14年、新聞にはすくすく育つ孫達の活動や彼等との交流を楽しむ姿が、写真付きで掲載されるようになりました。勤ジーチャンのデジカメ写真の撮影技術や編集の腕も大分上がりました。

孫達の成長は目覚ましく、例えば、昨年1月に開催された横浜市立学校総合作品展で咲紀ちゃんの『かわうそとにじ』と題された絵が展示されました。勤ジーチャンと史子バーチャンはすぐ見に行き、その感動を第138号のトップ記事にしました。咲紀ちゃんの活躍はジーチャンとバーチャンに、「自分達も負けないようにもっと頑張ろう」という思いを抱かせました。また第139号には4番目の孫の爽良（そうら）君の中学

校の『学年だより』に掲載された詩が転載されています。本当に素晴らしい詩なのでここでご紹介させていただきます。

自分が当たり前だと思っている裏で  
当たり前がなくて苦しんでいる人がいる  
自分が何かを食べる裏で  
何人も人がそれを作るために  
時間を失っている

自分が何かを身につける裏で  
時間が過ぎていく  
人類が発展する裏で  
地球が泣いている

人は何かを得るたびに  
見えないだけで何かを失っている

浜岡さんご夫妻には3人の娘さんがあり、それぞれの娘さんに2人ずつお子さんが生まれたので、合計6人のお孫さんとなります。お孫さん達も成長し、現在では健太郎君（21才）、みくちゃん（18才）、陽平君（18才）、爽良君（14才）、咲紀ちゃん（8才）、有

## ジジ（時事、爺々）タイムズ



紀ちゃん（5才）だそうです。お二人に取っては目に入れても痛くないような可愛いお孫さん達のようなです。浜岡さんは「孫達の成長ぶりを記録した『ジジタイムズ』は宝物だ」と言っています。お孫さん達は今はまだその年齢ではありませんが、彼や彼女らが大人としての年齢を重ねれば重ねる程、この『ジジ

タイムズ』やその裏にある勤  
ジーチャンとの懐かしい思い出  
を振り返る時、きつとそれは何  
物にも代えがたい、大切な宝物  
となることでしょう。

数学者の岡潔さんの言葉に  
「真理の手ざわりは懐かしさに  
あり」というのがあります。確  
かに人が人を懐かしく思う時、  
そこには純粹な気持ちがありま  
す。愛情と言って良いかも知れ  
ません。私も「ジサンの思い  
出」として「かわら版」5号に  
私の母方の祖父母との交流を書  
きました。何十年経った現在で  
もお二人は懐かしく、思うたび  
に喜びと楽しさと感謝の念が沸  
き上がります。懐かしい思い出  
は人生の一瞬の時に出逢った人  
との間にも起こります。以前に  
私のエッセイの中で述べた、広  
島で出逢った二世の男性や旧東  
海道を私が歩いている時に亀山  
で出逢った井戸掘り職人の小父  
さんとの思い出は、私の心を豊  
かにしてくれています。そして  
私を励ましてくれています。

## 自分史を孫たちへ

今回の「かわら版」の特集は  
自分史です。読者の皆様にも是

非、お孫さん達のためにも皆様  
の人生の記録を残して上げて欲  
しいと思います。お孫さん達が  
成長し、人生の苦労や悩みに遭  
遇した時に、おじいちゃんやお  
ばあちゃんの生き様を知ること  
は、とても貴重な励ましになる  
ことと思います。また一緒に体  
験した楽しみや喜びは懐かしい  
思い出として、幾度となくお孫  
さん達を勇気づけることでは  
う。

自分史をお書きにならなくて  
も、お孫さん達に自分達の子供  
の頃や若い頃のお話をして上げ  
るのも良いでしょう。「孫達は  
今は自分のことで一杯で、なか  
な年寄りの話など聞いて呉れ  
ない」とおっしゃる方もありま  
すが、そんなことはありません  
。自分が子供の頃に体験した  
ことなどは、時代が違え、若い  
お孫さん達にも共通するもので  
す。もつともつとお孫さん達と  
話をしてください。なかなか話  
しづらい事ですが、自分が失敗  
した話や後悔している事なども  
彼等には興味深く、また参考に  
なるでしょう。人生で一番嬉し  
かった事や、若い頃の初恋の思  
い出や、結婚に至ったなれそめ

の話なども孫達に取っては面白  
いと思いますよ。なにせ自分の  
この世での存在の源泉ですか  
ら。

## 懐かしさが残すもの

最後に「懐かしさ」を持つパ  
ワーを示す一つのエピソードを  
お伝えして私のエッセイを終わ  
りましょう。本当の話です。

自分の命が余り無いと悟った  
入院中のおばあちゃんがいまし  
た。食欲もなく、日々悪化して  
行く肉体を嘆き、痛みに耐える  
日々でした。表情は暗く、元氣  
はありませんでした。ただ死を  
待つだけでした。

そこに新しく担当になったお  
医者さんが来ました。偶然です  
が、おばあちゃんとそのお医者  
さんとは東北の同じ県の、それ  
も同じ小さな町の出身だという  
ことが判りました。お医者さん  
は診察に来る度におばあちゃん  
と郷里の話をしました。小学校  
の前にあった雑貨屋さんでおま  
け付きのカバヤキャラメルを  
買った話、夏の暑い日、橋のた  
もとにあった店でカキ氷を楽し  
んだ話、神社での夏祭りやお寺  
での盆踊り、懐かしい郷里での  
思い出話は尽きませんでした。



思わぬ変化が起きました。お  
ばあちゃんに食欲が戻って来ま  
した。表情も明るくなりました。  
痛みは続いたものの、おば  
あちゃんは残りの日々を心静か  
に過ごしました。ある日、お医  
者さんが診察に行くと、おばあ  
ちゃんベッドの上に正座し、  
「懐かしい郷里のお話をして頂  
き、本当に有難うございました。  
た。とても楽しゅうございました  
た」と言い、深々と頭を下げま  
した。

そしてその翌朝、おばあちゃ  
んは息を引き取りました。その  
表情はとても穏やかで笑みさえ  
感じられる程だったそうです。  
単なる同郷の懐かしい話だけで  
も、人を慰め、平和な心にして  
くれるものですね。



高山秀男



## 旅立ち



備に取り掛かりました。

### 【 21年間の蓄積 】

まず、21年間ため込んだ「物」の処分を考えました。ワイフの夢だった5点セットの家具を若いカップルに、お気に入りで買ったイタリア製のソファセットは息子の友達に引き取って貰いました。使い古しのものは売ってもどうせ二束三文、喜んで貰える人にも思いました。それと同時に家の前のドライブウェイに一番大きな40フットターのダンプスター（工事などが出る廃棄物を入れるゴミ箱）を一週間置いてもらい、不要な家具も含めてあらゆる廃棄するものを入れました。しかし、それでは不十分でした。最初は考えて引越し先に持って行くものだけを箱詰めしていましたが、21年間の蓄積は200箱を超えていたのです。これは箱詰めしているうちに疲れ、面倒になり全て入れてしまったからです。

をして引越し、家を空にしてから売り出すべきでした。お隣さんは引越しの当日まで荷物はそのままでした。それは、AS・IS条件で売却し、必要なものはPODSと云うコンテナに入れて保管、廃棄処分するものは全て引越し当日に廃棄業者のトラック5台で、しかも、5人で2時間で終了と云う超スピード、簡単でまさにマジシャンが行うマジックそのものでした。費用は売却後の利益から経費として差し引くので高額でも全く問題ないと言っておられました。

肝心の本当に家は売れたのか？ですが、アイデアから売却まで2ヶ月間掛かりました。オープンハウスで12件のオファーがあり、その中で一番高額を出したバイヤーに決めましたが、先方は6日目にキャンセル、2番手もキャンセルと続き、一時は挫折感で売れないのではと心配しましたが、3番手で決まりました。本当に色々ありましたが後悔はありません。

これから、21年間住み慣れた家を去り、いよいよ私たちの新たな旅立ちです。

お隣に住んでおられた日本人のご家族がサンフランシスコへ引越すことになり、家が売りに出されました。その話を聞くと、我々も家を売ることになったのです。我が家（トーランズ市）を購入したのは2000年5月、住んで21年になります。子供、愛犬達もここで育ちました。バックヤードが広くとても気に入っている家です。

私は現在74歳、20代で日本から海外に移り住み、海外生活は50年以上になります。2年前から最後は生まれ故郷の日本に戻り、好きなことをして暮らしたいと「日本への帰国セミナー」に通い始めました。その一年後の夏です。バイパス手術を行い、心不全で亡くなる一歩手前で運よく一命を取留めました。人生いつ何が起こるかわかりません。もうそろそろ日本へ帰国しても良いのではと思いましたが。

家を売りに出したお隣さんの話では、移ってくる人達は日系人ではなく、またバックヤードに家を増築するのではとのこと。最近、トーランズ市の規制が変わったようで、2世帯が住めるようになり、そのせいか、至るところでバックヤードに家を建てるのを目にします。それで、我々も「家を売るのは今だ」と直感しました。売り物件が少なく、金利が安い今が売り時だと思いましたが、結構高値で売れると思いましたが、それと、お隣に移ってくる人達がバックヤードに新築の家を建て始めたら、建築工事であるさくなるばかりか、隣なので日当たりも悪くなり我々の家の価値も下がってしまうのではと危惧したからです。今から思うと、体の自由が利き頭の方が先走りした感があります。即、不動産屋さんに家を売りたいとの意向を伝え、出来ればお隣さんが引越す前に売れないかと急いでもらい、準備



# 友への報告と感謝

鶴亀 彰

雲田康夫さん、

天国の居心地はどうですか？  
楽しく明るくチャランポランに過  
ごしていますか？

貴兄が旅立ってから早いもの  
で、1年と8ヶ月が過ぎました。  
地上の私達はまだモゴモゴと煩  
悩の日々を続けていますが、今日  
は貴兄にその後の『チャランポラ  
ンの会』の報告と貴兄への感謝の  
言葉を述べさせて頂きたいと思  
います。

「何としても『チャランポラ  
ンの会』の会報誌『かわら版』を  
10号までは続けよう」と、  
貴兄、鳥居欣一さん、高山秀男さ  
ん、そして私の4人の発起人で誓  
い合って始めました。その後、高  
山さんが健康上の理由等で退会さ  
れ、そして貴兄が3号発刊後に亡  
くなりました。さらに新型コロナ  
ウイルス感染が広がり、世界を巻  
き込んだパンデミックとなりました。  
2019年春から始まった私  
達の活動も一年足らずして風前の  
灯と思われました。

しかし、多くの皆さんから継続  
への強い期待が寄せられ、そして

心のこもった寄付金や様々な支  
援の手が得られました。会員の  
数も日米で増加し、投稿も増え  
ました。最初から寄稿してくれ  
た北岡和義さんや若尾龍彦さん  
からも寄稿は続きました。貴兄  
の長年の親しい友人である土田  
三郎さんが、貴兄の遺志を引き  
継ぎたいとして参加頂きま  
した。また宮田慎也さんと石口  
玲さんも運営委員として参加し  
てくれました。『かわら版』発  
行の最初からボランティアとし  
て活動してくれた北村亜矢さん  
と佐伯和代さんもパンデミック  
にも負けず、誠心誠意、頑張っ  
て頂きました。

心優しい北村さんはパンデ  
ミックのため自宅待機を余儀な  
くされた会員の皆様を少しでも  
励ましたいと、特別臨時号の発  
行を運営委員に呼び掛け、全員  
の賛同と協力で、わずか二週間  
足らずで完成させ、会員の皆様  
に郵送し、喜んで頂きました。  
「笑いとユーモア溢れる記事に  
励まされました」とか「頑張る  
勇気を得ました」と言ったコメ  
ントが多く寄せられました。そ  
の後も「気まぐれ号」と題した  
特別臨時号が発行されました。

コロナ禍のため、急遽ズーム

を利用して会議を続け、幸いに  
して一度も休刊せず、10号ま  
で無事に発行し続けることが  
出来ました。とても嬉しく思  
いますし、天国の貴兄にも喜  
んで頂けると思っています。惜し  
むらくは、計画していた「会  
員懇親会」や「一日バス旅  
行」、「健康セミナー」等が中  
止になったことです。代わりに  
ズームでの交流会を二ヶ月置き  
に行っています。

鳥居さんも85歳になりました  
た。私も80歳になりました。  
鳥居さんは来年からは日本での  
生活になるようです。そこで私  
達二人はこの10号発行を見届  
け、今年一杯で退任します。来  
年からは土田さん始め、宮田さ  
ん、石口さん、そして新たにポ  
ランティアとして手を上げて頂  
いた宮里カツさん、太田勉さ  
ん、大田祥子さん、古口友紀さ  
ん等の手で11号からの『かわ  
ら版』が新たに始まる予定で  
す。森田のりえさんにもご協力  
頂けるようです。

貴兄の発案で始まった『LA  
川柳グランプリ』も来年春に第  
3回が開催されると思います。  
是非天上から見守って下さい。  
楽しい3年間でした。貴兄と鳥

## チャランポランの会 発起人



【かわら版0号】より抜粋

(故)雲田康夫

「確かに人の命は尊  
い、長生きは素晴らしい  
ことだが、そろそろ長  
寿を満喫している我々が、日本に向  
けて改革する勇氣に一石を投じる  
時が来ているように思う。戦中、戦  
後を生きてきた諸兄は白いご飯を  
食べられなかった時代をくぐり抜  
け、飽食の御代『平成』まで生きて  
きた。しかし我々の使命は今の人生  
を楽しむと同時に未来に繋いでゆ  
くことが責務と思っている。  
標語『過去に感謝し、現在を喜  
び、未来に繋ぐ』これを忘れてはな  
らない。」

令和元年5月1日



居さんの数年来の願いであった  
『シニアのシニアによるシニアの  
ための会』である『チャランポラ  
ンの会』に参加させて頂き、本当  
に楽しかったです。心から感謝申  
し上げます。早かれ遅かれ、私も  
その内にそちらに参ります。そう  
したら、また一緒に『チャランポ  
ランの会 天国部』でも作りませ  
うかね？

## 新春特別号「かわら版7号」 1/1/2021



- エッセイ：鳥居欣一、鶴亀彰、土田三郎
- 心がホッコリ～：  
「米国議会が感謝決議した二つの村」
- B級グルメ食べ歩き  
「Mama Says」 宮田慎也
- 特集：『新春に思う』  
「新春に思う」 武藤顕 総領事

- 「開票結果を認めないトランプ、危ういバイデンへ政権移行」 北岡和義
- 「前に向かって」 石口玲
- 川柳つれづれ草：16代目尾藤川柳
- 特別寄稿：【ガンを笑い飛ばそう／入江健二】  
【愛道ヨガ／チャンドラ千夜子】  
【歌って元気に／小川弘子】  
【川柳に見るロス暮し／後藤英彦】  
【まさかの冠状動脈手術／高山秀男】  
【アメリカの立憲精神／若尾龍彦】
- 素敵な人：出村文男

## かわら版0号から10号

かわら版のバックナンバーをご覧になりたい方はウェブサイトをご覧ください。0号から最新号までございます。 [www.CharanPoranUSA.com](http://www.CharanPoranUSA.com)

## 「かわら版8号」 4/1/2021



- エッセイ：鳥居欣一、鶴亀彰、土田三郎
- 心がホッコリ～：  
「ポーランドの極東青年会」
- B級グルメ食べ歩き「一味庵」 宮田慎也
- 特集：『躍動の春』
- 第二回LA川柳グランプリ発表
- 川柳つれづれ草：16代目尾藤川柳
- ジャーナリストの目：“権力”を怯ませ

- た赤とんぼ、伊藤千尋著『心の歌よ！』 北岡和義
- 特別寄稿：【己を知る／竹中征夫】  
【一人ブレインストーミングの勧め／若尾龍彦】
- 詩：「南加の春」 石口玲 ●素敵な人：坂本安子

## 「かわら版9号」 7/1/2021



- エッセイ：鳥居欣一、鶴亀彰、土田三郎
- 心がホッコリ～：「許しと憎しみ」
- B級グルメ食べ歩き「Bazille」 宮田慎也
- 特集：『健康であるために』  
「幸せ心理学：河瀬さやか」  
「80歳からの健康法：入江健二」
- 「他人の不幸は蜜の味エネルギー溢れていた  
反戦運動」 北岡和義

- 特別寄稿：【公園ラジオ体操の効用／若尾龍彦】  
【もったいないのレッスン／高木美津子】  
【シニアの健康に太極拳が役立つ／菊田ジョージ雅之】
- 「私の進路選び」 石口玲
- 川柳つれづれ草：16代目尾藤川柳
- シニアのための団体紹介：ナルクUSA ●素敵な人：紙本典子

## 「かわら版10号」 10/1/2021



- エッセイ：鳥居欣一、鶴亀彰、土田三郎、高山秀男
- 心がホッコリ～：「思いやりの連鎖・一つの思い、一つの行動」
- B級グルメ食べ歩き「Conrad's」 宮田慎也
- 特集：『自分史のすすめ』 高橋 誠 『バケツリスト』  
【アイデンティティを意識する日系二世の自分史／中森雅実】  
【父の塩むすび／ローペス文子】 【金婚旅行、世界一周クルーズ／井出英雄】
- 「“解放”されない非・常民のアメリカ」 北岡和義
- 特別寄稿：【永代供養／若尾龍彦】 【東京オリンピック／半田俊夫】  
【終の棲家／入江健二】 ●「電車の中で会った女性」：石口玲

- 川柳「創作」の楽しみ：16代目尾藤川柳 ●素敵な人：ビル渡辺





## 創刊号「かわら版0号」5/1/2019



- エッセイ：鳥居欣一、鶴亀彰 (故) 雲田康夫、高山秀男
- 心がホッコリする本当のお話「靴を磨いてくれた少年」
- 特集：『発刊記念座談会 今だから語れる「夢」』
- 「かわら版」の裏方より
- 立ちションVS座ション
- やっぱり釣りだね ■ 健康情報

## 「かわら版1号」 8/1/2019



- エッセイ：鳥居欣一、(故) 雲田康夫、鶴亀彰、高山秀男
- 心がホッコリ～：「ワパトの町の日系人」
- 特集：『死があつて生がある』 北岡和義
- シニアドライバーの皆さんへ
- ロスの細道：南亭気楽
- 素敵な人：佐伯 佳代子

## 「かわら版2号」 11/1/2019



- エッセイ：鳥居欣一、(故) 雲田康夫、鶴亀彰
- 心がホッコリ～：「エディの日米戦争」
- 特集：『座談会「終の棲家は日本？アメリカ？」』
- 「隠居した武士の生き方に光」北岡和義
- 特別寄稿：【あっちゃんの旅情報】
- ロスの細道：南亭気楽 ● 第一回交流会
- シニアの気になるカフェ「TOMO CAFE」

● 素敵な人：阿久津 登美子

## 「かわら版3号」 1/15/2020



- エッセイ：鳥居欣一、鶴亀彰
- 心がホッコリ～：「若き乙女の一粒の種」
- 特集：『加州の大地に生きた日本人、先達への敬意と感謝』

- 「チャランポランな記者人生・社会の木鐸、1%の正義感」北岡和義
- ロスの細道：南亭気楽
- 「山登り」石口玲
- 第一回シニアと子供の交流会
- 素敵な人：中村恭子

## 「かわら版4号」 4/1/2020



- エッセイ：鳥居欣一、鶴亀彰、土田三郎
- 心がホッコリ～：「絆と懐かしさ」
- B級グルメ食べ歩き記：「The Tamale Man」 宮田慎也
- 特集：『川柳を楽しもう』16代目尾藤川柳
- 第一回LA川柳グランプリ発表
- 「乱戦に逝った“豆腐バカ”へ思いっきり高く手を振ろう」北岡和義

- 「私と川柳」石口玲 ● 追悼：雲田さん、ありがとう！
- 特別寄稿：【北米川柳の歴史と伝統／関三脚】
- 【桃の花／鈴木敦子】 ● 第二回交流会 ● 素敵な人：佐藤松豊

## 「かわら版6号」 10/1/2020



- エッセイ：鳥居欣一、鶴亀彰、土田三郎
- 心がホッコリ～：「收容所内の美術学校・小圃千浦」
- B級グルメ食べ歩き記：「Lee's Kitchen」宮田慎也
- 特集：『文芸の秋、読書の秋』
- 「読書の効能」

- 「本と対話する読書術」若尾龍彦
- 川柳つれづれ草：16代目尾藤川柳
- 「痴漢撃退の話」石口玲
- 「“おしん”に込めた作者の思い、読み落としした今、コロナ来襲」北岡和義
- 特別寄稿：【難聴手術の顛末／入江健二】
- 【届けたい親への思い／ギドリ正子、井上良平】
- 【荒城の月／鈴木敦子】
- 【西部劇撮影地探訪／長島誠】
- 素敵な人：佐藤芳江

## 「かわら版5号」 7/1/2020



- エッセイ：鳥居欣一、鶴亀彰、土田三郎
- 心がホッコリ～：「国境を越えた人間愛」
- B級グルメ食べ歩き記「La Esperanza」宮田慎也
- 特集：『人類とウィルス』
- 「BCからADの時代へ、夢想する諜報プロの暗躍」北岡和義
- 「ヌード写真と大学生」石口玲
- 川柳つれづれ草：16代目尾藤川柳

- 特別寄稿：【私の白内障手術とその後／松永典子】
- 【近頃ふと思うこと／画家、坂田英夫】
- 【瞑想の奥ゆかしさ／ヤングキム】

# 川柳「創作」の楽しさ

## 祖父の目を通した人肌の川柳



十六代目  
櫻木庵 尾藤川柳

川柳の文化を通して皆様と接する機会は、有難く嬉しいものです。

今回は、川柳の楽しさの中でも、最も文芸的な世界：「創作」をご紹介します。

### 創作とは

川柳は、発祥から「課題」を伴った作句が普通でしたが、明治の文芸復興運動の中で課題を作句契機としない川柳が生まれました。流入する西欧の詩に触発されたものだったのでしよう。

### 卑近な例として尾藤三笠

課題による作句は、常に「競吟」という食うか喰われるかの勝負の為の作品で、ここでは選者の好みや癖などへの忖度が働き、そ

れが勝敗の多くを占めます。創作は、作者の内側から紡ぎ出されたもので、作者自身の心をより強く反映いたします。



尾藤三笠

私の祖父・尾藤三笠（みかさ）もまた、新聞の投句や句会から川柳に入りましたが、やがて祖父の影を感じられる句を作るようになります。

それを知ったきっかけは、祖父の33回忌を前に、父が1冊の古い新聞のストックブックを手渡し「おじいちゃんの供養のために句集でも作ってやりたい。この中から三笠の句を抜き出してくれ：」ということから始まります。

### 親馬鹿が生んだ娘の不良性

は、まだ結婚もしていない14

歳の作品ですが、オトナの中に混じって入選したのが最初です。

これは、「親馬鹿」という既成概念から生み出したコトバで、作者自身の経験とは別世界、頭の中的一句だったでしょう。

昭和3年には、結婚を前に23歳でガリ版刷りの『三笠句集』を出しています。

### ほろ酔の仮でおきたい父の顔

母だけが夜中の風を知っている

など、かなり「目」を活かした作品が生まれてきます。

頭の中で句を作っている、どこまでも「借り物」のコトバと世界ですが、自らの五感を通して紡ぎ出した言葉には、作者の影が現れます。

やがて結婚。

### 妻の留守雑巾みんな乾き切る

一人っ子母の寒さを着せられる

「雑巾」は、目にした現実でもありながら、作者自身の「心の渇き」をも投影しているようです。「一人っ子」は、自分自身でもあ

りながら、生まれたばかりの我が子（後の三柳）への思いでもありましょう。

この結婚当時には、多くの柳友がありました。そんな仲間が三笠に届けた祝吟の短冊があります。



三笠華燭への祝吟短冊

来年の今頃はもうお父さん

金一郎

菊の秋特に芽出度い三河島

三太夫

目も耳も二人になってただ嬉し

夢一佛

ほほえめばほほえむ顔が

前にあり 桃太郎

友達や先輩柳人に少し弄られ

ながらも温かい目で祝われる三笠の姿が伝わってきます。

この結婚は、昭和3年秋。既に90年以上前の話ですが、色濃く三笠という人と周囲の人間関係が体温のように伝わってきます。

これも、句会の競吟とは違う祝吟の川柳の素晴らしさです。

### 戦時下の三笠

やがて日米は、不幸な戦争へと突き進みます。

アメリカには、収容所で作られた川柳に心を震わせるような作品が残され、関三脚氏の「北米川柳道しるべ」などで見る事ができますが、祖父もまた実体験をそのまま句に残しています。

一機二機また一機二機白い雲

勉強をしろと戦地の初便り

大戦果毘沙門様も笑いそう

緒戦の勝利は、一国民である三笠を喜ばせたようですが、「一機二機」の句には、頭上を行く軍用機に何がしかの不安も見えるよう…。

腕前のそれから先は体当たり

二千余の英霊北の道しるべ

征夫還る日を三尺の床の花

特攻という事を耳にするように

なり、「二千余」は、アツツ島の玉砕。「征夫」は「つま」と読みますが、出て行ったきりの出征兵士に思いが向かいます。

三笠は、この時不惑の少し前。幸いと言っていないかどうか、極端な弱視で徴兵検査を落ちました。男のいなくなった帝都での地域の纏め役として頼られたようだ。

雑草に名をつけ守備もやや長し

一見、野球の句のようだが、国内の川柳界は「翼賛川柳」の名の元、戦意高揚の句ばかり。そんな中で三笠は、現実を句にしました。

ポンプ押しこの腕帝都護る腕

雑炊で勝ち抜くまでの腹が出来

有り余る髪は束ねてそれでよし

救護班明日は見合に行く娘なり

子の育ち配給米へ母の知恵

三笠の銃後です。空襲にも最後まで東京を離れなかった三笠が見た一部だが、戦争を知らない私の背すじにも伝わってきます。昭和20年8月15日の終戦後の19日、焼け野原の東京で川柳きやりの句会が行われ、生き残っ

た柳人が顔を揃えました。その中に三笠の顔がありました。

子の機嫌かのこの小豆二つずつ

こんな時に川柳でもあるまい…、という切迫感ではなく、これから川柳を通して心も復興していこうという村田周魚先生の思いからだろう。終戦から僅か4日後の句会開催は、私どもにも川柳という文化を継承し、時代に生かすという事をその背中をもって示しているように感じました。

### 戦後の三笠とわたし

民主主義母に逆らう事でなし

敗戦の理由どれもが腑に落ちず

ご近所と交際のない負け肥り

闇市のそれでも露天商とあり

というように、三笠は、自分なりに社会、時代を捉えるところにも、



三笠句集

作者自身の心の内側をも言語化して川柳に残しました。

三笠は、戦後復興期の日本を支えるところにも、東京川柳界の発展にも尽力、昭和30年5月に亡くなりました。

私が生まれたのは昭和35年6月。重なった時間的接点がなく無いのだが、父に三笠の句を抜き出せ…と言われて書き写している内に、三笠というニンゲンが判ってきたような気がします。

写真や染筆、ラブレターまで載せて出来上がった三笠句集『親子とり子ひとり』は、まさに一人の川柳家を浮き上がらせた。

川柳は、作者の分身に成り得る表現であることを再認識させます。

三笠は、私にとって英雄でも目指すべき川柳家でもないが、一人の人間のフィルターを通した川柳は、紛れなく作者の息づかいや体温まで伝えていきます。

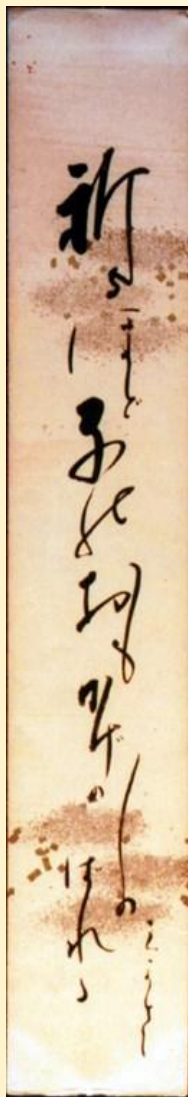
「創作」とは、句会の作品とはまた違う川柳の楽しみです。

是非、競吟以外に創作を楽しんでもらいたいと願っています。

ふつつと父祖の降り積む柳樽

川柳

三笠直筆短冊「祈るほど子のおもかげのしのばれる」



# 永代供養ブーム

若尾龍彦

猛暑、コロナ禍ですが、オリンピックが終わり、パラリンピックも終盤です。地球温暖化の影響で今年も各地に豪雨と土砂崩れなどの災害が頻発しました。ワクチン接種率は曲がりなりに上がってきましたが、感染拡大は止まりません。医療逼迫で入院できず、自宅療養中に亡くなる人も出始めました。人々は繰り返し緊急事態宣言

とそれでも増え続ける感染拡大で、外出自粛を守るほか自衛の手段はない状態です。生や死についてさえも考えるようになりました。

以前、2017年の暮れに新聞で、五木寛之氏のインタビュー記事を読んで愕然としたことを思い出します。「一人で逝く覚悟」です。五木氏は少年期に平壤で終戦を迎え、周囲に大量の死を見る過酷な引き揚げ体験を持ち、長年人間の生と死について深く考えてきた直木賞受賞作家です。彼は、世界でもっとも高齢化の進む日本は、650万人もの団塊の世代が70歳代に入り、やがて大量の要介護老人と大量の死者が周囲にあ

ふれかえる多死社会の時代がくるというのです。ベビーブームといわれた戦後の1947年から49年の3年間で出生数800万人超の人口爆発となったこの世代は「団塊の世代」と呼ばれ、優生保護法、避妊・中絶・不妊手術などの産児制限を取り入れざるを得ませんでした。

団塊の世代はその後、学校増設・多人数クラス、集団就職、人口の都市集中、都市圏の拡大や団地の出現、第2次ベビーブーム、核家族化となって次々と社会の形態を変えてきました。その団塊の世代がいよいよ今年は74歳となり、健康寿命が尽き要介護老人となつて一斉にこの世から退場してゆくのです。高齢化社会に加え核家族が進んだ社会は、遠距離介護、老老介護、介護疲れによる自殺や殺人などのニュースが絶えません。若者より高齢者の多くなつた社会では、身体が次第に崩壊して逝く中、肩身狭く生きねばならず、自分で孤独に終末を迎えざるを得ないのです。そんな覚悟を持たなくてはいけない時代の到来

は、五木氏が語るように、個人としての老いや死の問題から、宗教も含め社会全体としてどう受け止めていくかという課題を突きつけられています。

五木氏は、多くの人が家族との絆も薄れる中で、子や孫に囲まれて息を引き取るようなことは、もうあり得ないと思つたほうがよい、最後は一人でこの世を去る覚悟を持たねばならない時代になると語っていました。

最近ネット広告で「永代供養」の広告が目立ちます。昔は、お墓は先祖代々子孫が守り継ぐものでした。戦後の人口都市集中化により、田舎で生まれても大都市またはその近郊へ就職し、お盆やお正月毎に帰省し、友人達に逢つて近況報告やお墓参りをしたものです。お盆やお正月休みには汽車の切符取りや長い車の渋滞に苦労しながらもお土産を用意して帰つたものです。

それが近年は墓地に無縁墓が増え始めました。核家族・少子化で田舎に老父母が残るだけとか、都会に引き取つたり老人ホームに入れたりする家庭が増えてお墓を引き継ぐ者がいなくなるのです。墓地を訪れると雑草に覆われかけた

墓が目立つようになりました。お墓の継承は法事やお寺への墓地の維持費など結構経費がかかります。女の子ばかりの家庭では、嫁入り先へお墓の維持費まではと親の気持ちも働き、止む無く墓仕舞いすることも多くなりました。

葬儀社には、海への散骨・樹木葬など様々な葬儀形態のパッケージが見られます。そして「永代供養」です。広告を見ると、宗派を問わず、何宗でも構わない。一定額を支払えば合同の納骨堂があり、30年とか50年は骨壺に収めて供養するし家族・親族のお参りもできる。その期間を過ぎると一緒の合同納骨堂へ収め永代供養するのだそうです。大きなお寺ではお参りのついでにカフェや食堂もある。死後は生前の思い出を持つている人の胸に生きているのだから、知っている人達がいなくなれば合同納骨堂へということらしい。時代と共にお墓も変化するものだと納得しました。



## 【 電車の中で会った女性 】

石口 玲



少しずつ終活を始め、昔の原稿を整理していたら、面白い原稿が見つかった。

一寸言い訳を作って会社を休み、どうしても見なかった絵の展覧会に行った帰りである。午後のガラんとした電車に乗って帰路に着いた。私の隣の椅子の端に中年の、感じのよい、物腰の上品な女性が座っていた。私はその隣に座った。ひどくおしゃれをしているわけではないが、髪をきちんとセットし、身ぎれいな明るい感じの女性だ。午後の車内は、外出中らしいサラリーマンが2-3人、子供連れの母子、おばあさん、そんな人達が乗り合わせていた。冬とはいえ、午後の陽が射し込み、座席の下からは心地よい暖房。誠に気持の良い温かさである。何人かは電車の揺れに合わせ、気持ちよさそうに眠っている。私は展覧会のパンフレットに目を通していたのだが、眠気がさし、ボーっとし出した。そして、2-3の駅を過ぎた。すると、次の駅まで、まだ半分ほどだ、と言うのに隣のその女性が立ち上がった。そうか、次で降りるんだな、薄目を開けて何となくその女性の立ち上がった足元を見るとはなしに見た。そして、一瞬、あれ！何だろう？と思った。ストッキングの中に何か入ってる！のである。左足ふくらはぎの一寸左寄りの所である。なんだ？もう一度気づかれないようによ〜〜く見た。なんと、それは小さな赤い枠の付いた値札ではないか！至いくらまでは分からないが、間違いなく値札である。きっとこのストッキングの値札だろうなあ、思わず吹き出しそうになるのをグッとこらえた。もう眠気は吹っ飛んでいる。ゆっくりと落ち着

いた、中肉中背の美しい奥さん（であろう）である。いったいどうやってこの靴下をお履きになったのですか、と聞きたくなった。履く時に違和感がなかったんだらうか、と不思議にもなった。私のそんな気持ちをよそに、電車はホームに到着。その夫人は、ドアが開くと、落ち着いた歩調で、値札の入った足をちらつかせ降りて行った。

私は今でも気になっている。そして電車の話になると思い出し、クスツとしてしまう。あの奥さんはどこかで、あの値札入りに気づいたときは、どんな顔をするかなあ？と想像する。

この原稿を書いてからもう半世紀以上になる。私はまだ20代だった。この原稿を見つけ、読み直し、やっぱりクスツとしてしまった。

ところで・・・、終活のための断捨離を始めたらもっと散らかってしまい、收拾がつかなくなっている。



惚けない五ヶ条

明るく

気持ちの若い人

人の世話をし

感謝できる人

ものをよく読み

よく書く人

よく笑い

感動し忘れない人

趣味を楽しむ

旅の好きな人





# 若い研究者物語

(自分史)

ご存知のように昔は、貧困脱出のため丁稚奉公という家族の人減らしがありました。

大家族に育った自分は、親父の指令により中学を終えたら丁稚奉公に出る予定でした。

幸いなことに家族の支援で丁稚奉公が中止となり、高校進学となりました。家族の中で

高校に進学できたのは自分だけでしたから、高校を卒業したら働いてお返しをしようと思いました。当時は、自然の

恵みに感謝する自給自足の村落共同体で、戸主を長とする家制度による冠婚葬祭の相互

扶助方式でした。そのために家でも相互に助け合う生活の知恵が生まれ、報恩の気持ち

が養成されました。自然を崇拜する環境で育まれた若い時の体験は、貴重なものでした。

その頃の通学は、信仰の

メッカ出羽三山（羽黒山、湯殿山、月山）を横目で挨拶しながら自転車ですり抜け、雨ニモマケズ、風ニモマケズに庄内平野を突っ走ります。体力消耗でお腹が減りました。「家族の皆が

苦労しているのだ。ガンバロー」と自分に言い聞かせておりました。その後、お蔭様で東京にある大企業の就職試験に合格。同時に工業高校の工業化学科も卒業しました。

今でも新幹線の走っていない故郷の酒田駅から、寝台列車で上野駅まで約12時間。希望に膨らむ東京の就職先は、大企業の技術研究所でした。その地域

には、研究所の他に社宅、独身寮、運動場等があり、そこで第二の人生でした。研究所の目的は、石油ベースのプラスチック

## 研究所勤務

ク、合成繊維、医薬品、染料、農薬などの革新分野の事業確立でした。寒村から出てきた自分には目にするものが物珍しく浦島太郎のようで、どこから見てもイナカッペの様相でした。

肝心の仕事は、解析研究室という聞き慣れない分野です。社内他の研究室で化学合成された化合物質の化学的特性を定量、定性、分子的に解析判定して、依頼者の各研究室に戻すのが仕事です。解析担当研究員は

総勢50名程でした。当時は東京オリンピック前高度経済成長期に突入して、どこでも戦場のような雰囲気でした。研究所の仕事も例外なく多忙で、受注を待っている呑気なものではなく、仕事に追われながら受注する状態で、毎日残業はざらで、徹夜になることもしばしばでした。今風でいえば立派なブラッ

ク集団です。使用する当時の計算機は、歯車利用機械式でした。

解析研究室では増大する研究分野のニーズに対応するために、元素分析、ガスクロマト、液相クロマト、核磁気共鳴、電子スピン共鳴などの最新解析機器を導入して行きました。今の科学技術に比べれば、比較にならないレベルの機器でしたが、当時は最先端技術を用いた高価なものでした。現代の病院にある医療機器の基礎となる機器類といえます。これを支える研究者は、博士課程、修士課程の強者

が仕事です。解析担当研究員は総勢50名程でした。当時は東京オリンピック前高度経済成長期に突入して、どこでも戦場のような雰囲気でした。研究所の仕事も例外なく多忙で、受注を待っている呑気なものではなく、仕事に追われながら受注する状態で、毎日残業はざらで、徹夜になることもしばしばでした。今風でいえば立派なブラッ

ク集団です。使用する当時の計算機は、歯車利用機械式でした。



がゴロゴロしており、高卒の自分とは比較にならないレベルでした。でも当時は緻密な研究を正確に繰り返す作業が求められていたので、学歴、性別に拘らず、集中力、創意工夫などの個人の資質が重視されました。文献も翻訳ではなく英語で理解して、研究に役立てる読解力も求められました。このために自分にとっては遣り甲斐がある仕事でした。その頃この企業が、テーマとして全従業員に求めていたのは「忠誠心」でした。

## 化学研究のコツ

どうにか一人前に仕事ができるようになるまで、繰り返しの忍耐力と集中力、的確な判断が必要で、相当な期間を要しました。考えてみれば、世の中の技術はすべて繰り返しの行程を積み重ねて進化しています。言語、音楽、運動、思考もすべて同じことを繰り返す作業の結果、高度な

レベルに到達します。このことを意識すれば、目の前の小さなことに一つ一つ丁寧に対応することで進歩が得られ、小さな自信が生まれ、信頼も得るようになります。上司に任せられて自主的に判断できる仕事が増え、徹夜も辞さず「夜の男」の異名を得るほどに仕事に集中できるようになりました。高度経済成長の波に自分の成長を合わせることでできたのは、幸運でした。

解析研究では、研究手順を厳密にしてインプットを繰り返して、アウトプットの精度を高めることが基本でした。細かな作業を慎重に繰り返すことは、自分の性に合っていましたし、その結果、対象となる検体そのものの微妙な特性の違いを判定できるようになりました。研究作業では、細心の注意のもとで試験を公平に見ることや、失敗しても気持ちを切り替えて迅速に対応することが求められました。注意力が散漫な状態で入力すると、結果は悲惨な結果とな

ります。心の管理も必要でした。

「機器は彼女のように正直だから、丁寧に対応すれば期待する正確な結果を出してくれま

す。だから真面目な姿勢で対話するのがコツです。彼女を信頼し、愛のある気持ちで丁寧に対応することです。このことは、この研究所で研究開発している人たちの試験官内で発生する化学反応でも同じことです。化学反応を信頼しながら実験を行うと、期待どうりの成果が生まれ

ます。研究を重ねていると、天は希望どうりの生成物を与えてくれるのです。」

確かに自分は、機器は機械と

思っていました。「機械は、俺のこの青春の悩みを分かってくれないのだ。」思っていました。今、振り返ればなんと我儘であったことかと思えます。その姿勢では、試験結果にブレが現れ、研究の道から外れ易くなります。我儘で横柄な気持ちで機器と対応していると、いつの間にか自分が機器に使われるようになっていきます。

「高度な精密機器は、その道のプロが情熱をもって微細な創意工夫を重ねて製作していき

ます。プロの情熱を肌で感じ取りながら、機器に愛情を持って接することが研究の成果に繋がるのです。」

これが解析研究室での仕事の

核心でした。敬愛する上司には研究のコツを丁寧に教えて頂きました。そして自分は実家への仕送りを終了し、進路を留学に

転換しました。



# みんなの広場

思うこと

パット ブルワー 73歳

私は進学よりも恋愛を選んで若くしてアメリカへ来た。あつというまに月日が流れて私の人生も最終章にさしかかるうとしている。

こうして歳を重ねる毎に思うことは人は皆それぞれの人生を生きて人それぞれに人生のストーリーがある。

人は何の為に生きる、生きていく意味は？ 人間の価値は何を残したらいい？ 等々、最近歳をとったせい、か、そうゆうことを考えるようになり、一体何をしたら残り少ない人生をいかに有意義に過ごせるか、ということも思った。

以前ボランティアをした時、気がついた事だが、人が喜んでくれたことで満足を感じたことがある。それは自己満足の何ものでもないかもしれない。

私の主人も生前は恵まれない子供達の為に長年物資を送ったり、寄付をしたりして応援して来た。(その想いを私の子供や孫達に伝えていきたいものがある。)

そして私自身 生きてる限り人が喜ぶことを沢山しようと心に決めている今日此の頃である。

## 私のおすすめ本

諸星芳子

みなさん、『ニッポン語、うんちく読本』という本をご存じでしょうか？ この本はジョン金井さんが日系引退者ホームで2009年から2016年までの6年8カ月、日本語をテーマにした「ソーシャル・アワー」という講座の模様を書き起こしたものです。当時の平均年齢86歳の参加者たちの暮らしが、垣間見えてとても楽しい本です。是非、多くの方に読んで頂きたいと思います。

『ニッポン語、うんちく読本』

―ロス発、日系老人

日本語パワー全開―

ジョン金井著／知玄舎



金井さんがボランティアとして熱心に取り組んできた文化講演「ソーシャル・アワー」は2016年、非営利組織の日系引退者ホームが営利企業に売却されたため、中止となりました。

●会報誌有難うございました。どのページからも教えられる事、感心する事がたくさんありました。私は去年の12月に転びまして歩行器に縋っての生活を今も余儀なくされ、毎日が奮闘です。入江先生の健康法有難く感謝をもって読みました。私と同年の方達(八十八才)は現在も一線にて人々の為に働き、手助けを続けていらっしゃるのを知りまして、歩行器くらいで愚痴などを言ってはならないと思いました。自分の不注意からの不自由さなのです。炎暑の中、くれぐれもお大事になさってお励み下さい。 T.S. バージニア州



■ 緑濃き故国を後に渡り来て

乾きし異土の土とならむや

訓子

■ 六人の老いし兄弟住む祖国

真幸くあれと祈り機に乗る

松永典子

●「かわら版」9号拝受いたしました。全く予期せぬ出来事で何と嬉しいサプライズ!心からお礼申し上げます。のったり人生に楽しみが一つ増えました。感謝。

F.S. 日本

●チャランポラン「かわら版」が友達から送られてきて、楽しく読ませていただきました。かわら版に懐かしいお名前を拝見してこうして書かせて頂きました。これからもお元気で頑張ってください。

K.G. カリフォルニア州





# おたより

●「かわら版」9号の特集“健康であるために”は今の私に必要なこと、大切なことを沢山教えていただき感謝しております。南加に住んでいたら御一緒に何か編集のお手伝いができたかもしれませんが、それが出来ず残念に思います。  
A.H.カリフォルニア州



●いつも「かわら版」たのしみに読ませて頂き有難く感謝しております。「生きている間にしておきたいこと」本当にもう少し若くて元気な時に考えるべきでしたと改めて思いました。できそうでなかなか進まない身辺整理に悩んでおります。先の見えないコロナ禍に加えて数々の天災等、なんとも不安な世の中では御座居ますが、どうぞ皆様お元気で過ごしてくださいませ。Y.K. カリフォルニア州

●当地は毎日暑い日が続き老いた身には暑さが堪えられなくなってきました。八十歳を過ぎた今、これからの人生を考えた時、不安が募りますが、毎回送ってくださる暮しに役に立つ記事を心の糧に楽しみにしています。大好きな「かわら版」を友人にも読ませてあげたく尋ねましたら、ぜひ読みたいとのこと、送っていただければ嬉しく思います。初回からの「かわら版」を全部保存し何回も読ませていただいています。運営委員の方々に厚くお礼申し上げます。K.N.コロラド州

●会報誌をお送りくださりましてありがとうございました。誌の色彩、そして紙のクオリティ、内容の素晴らしさに感動しました。  
R.W. ワシントン州

●ロスに来てチャランポランに会いました。新しい友達ができたみたいです。がんばって下さい。M.B. メリーランド州

●いつも温かく、魂の友人を感じさせる皆さんのお言葉、嬉しく読ませていただいております。また、紹介「かわら版」を送っていただいている友人の一人は、二名の知人を見つけられたとのこと、とても懐かしがっておりました。ありがとうございます。T.O. カリフォルニア州

●「シニアのシニアによるシニアのための会報誌」は今まで見た会報誌の中で一番素晴らしいと感じました。紙の質、写真、イラスト、装丁、そして内容の全てが一流です。プロ顔負けの会報誌ですね！「心がホッコリするほんとうのお話」「チャランポランエッセイ」「素敵人見つけた」に感動しました。また、9号の特集、「健康であるために」から多くを学ぶことができました。以前、ロサンゼルスでお目にかかったことがある入江健二先生と石口玲様も寄稿していらして、お二人がお元気で活躍なさっていることを嬉しく思いました。今後是非送って頂きたいと思っております。E. S. カリフォルニア州

■ 生きるには遊び心も虫の秋  
■ コロナ禍や隠れ値上げは急成長  
■ 心して一喜一句かわら版  
■ 残り時間コロナの二年を足してくれ

井出半句  
芳子  
未来ちゃん  
浦田彰



早苗



紀恵



のりえ

# 素敵な人

## 見つけた

Vol. 9



## ビル 渡辺

神から受けた「世のため人のために生きなさい」という啓示に従って生きて来ました。物質的な成功ではなく、精神的な満足が得られ、幸せな日々でした。それは今も続いています。心から感謝しています。

渡辺さんは1944年1月マンザナー収容所で生まれました。ご両親は福島県出身でした。戦後はサンフランシスコ・バレーで育ちました。ご両親は仏教徒でしたが、近くの日系のキリスト教会の日曜学校に通うように勧めました。そして15歳の時に、二人のお兄さ

んと一緒に日系牧師の手で洗礼を受けました。

カリフォルニア州立大学ノースリッジ校で機械工学学士を獲得し、ロッキードに就職しましたが、自分の一生を捧げる仕事ではないと感じ、退職しました。1967年から一年間早稲田大学に留

学し帰国後、神の啓示を受けました。そこでまずUCLAの修士課程で社会福祉学の勉強を始めました。

卒業後はバイオニアセンターで働いていたところ、1979年に設立され、1980年に法人化したリトル東京サービスセンターの理事長として働くよう要請を受けました。戦前に「小児園」という孤児院があり、その建物が戦後に売却され、Japan American Community Services (JACS) という団体がそのお金を保管していました。JACSはリトル東京サービスセンターにそのお金を寄付しました。8千ドルありました。当時としてはかなり大きな金額でした。その資金を基に活動が始まりました。しかし、まだオフィスも無かったので、最初の内はユニオン教会の一室に間借りしていました。

サービスセンターですが、すぐに前回「かわら版」8号で紹介された坂本安子さんが1980年、最初のスタッフとして入り、現在では専業スタッフ、ボランティアを含め、150人の規模に成長しています。渡辺さんは32年間の理事長職を務めあげた後、2012年に同センターから引退しました。

引退後も渡辺さんの地域貢献活動は続いています。1985年から1996年の歴史を刻んでいるリトルトーキョーですが、最近では地価の高騰に従い、家賃なども上がっているそうです。そのため、従来の伝統的な家族経営のビジネスが継続出来なくなっています。そこで、日本的なサービスが将来も経営出来るように、Little Tokyo Community Impact Fundというコミュニティ投資会社を仲間と呼びかけて作り、リトルトーキョーの一角の土地を購入し、家賃の上昇を抑えようと願っています。更に25年以上の念願である「テラサキ武道館」も完成し、来年のグラントオープンングを渡辺さんは待ち望んでいます。

渡辺さんは出来れば私達新一世も一緒になり、日本語が通じ、食事や趣味の会なども日本的な環境の中で出来る介護施設などの建設も夢んでいます。



## 《 ご寄付いただきました皆様、ありがとうございます 》

多くの皆様からドナーションを頂き心から感謝申し上げます。また、差し入れや切手、励ましのお便りなど、心温まるご支援に心からお礼申し上げます。お蔭様で「かわら版」も10号まで発行することができました。

Aiko Snavely	Ikuyo Hiraguchi	Kyoko Nakamura	Reiko Stepura	Toshie Ahmed
Akemi Miyake	Judith Hsu	Masako Guidry	Reiko Watson	Toshiko Bennett
Akira Fujimoto	Jun Yamada	Masumi Aoki	Rei Ishiguchi	Toshiko Lynn
Akira Tsurukame	Jushichiro Sudo	Matsuko Brooks	Ritsuko Kanzawa	Toshiko Okawa
Atsuko Fukushima	Kaoru Takahashi	Matsutoyo Sato	Rituko Uto	Toshimi Shapiro
Atsuko Shinfuku	Kats Miyazato	Megan F. Murakami	Ryoko Lacount	Toshio & Toshiko Handa
Aya Kitamura	Katsuko Watanabe	Michiko Boskovich	Sachiko Boerner	Toyokazu Nakayama
Ayako Hanaoka	Kayoko Maas	Michiko Clark	Sachiko Okada	Toyoko Adachi
Bob Kumagai	Kayoko Takei Morrey	Michiko Matsunaga	Sadao Tome	Yasuko Larson
Chieko Takahashi	Kazue Totubo	Michiko Yoda	Sakura Yamauchi	Yasuo Onogawa
Chiiko Takahira	Kazue Short	Michio Hattori	Satotaka Sawada	Yasuo Kumoda
Chizuko Maekawa	Kazuko Seko	Michiyo Nagikawa	Shigeko Saito	Yayoi Takeuchi
Dora Hillman	Kazuyo Nagata	Miki Pimienta	Shinya Miyata	Yoko McCurry
Eiko Matsumoto	Kazuyo Saeki	Mikizo & Chiyako Suzuki	Shingi Kuniyoshi	Yoko Okunishi
Eiko Y. Yoshimura	Keiko Date	Mimi Onogawa	Shozo Ogura	Yoko Reed
Emiko Suga	Keiko Gage	Minoru Osada	Toshizo Watanabe	Yoshi Morohoshi
Emiko Uchiyama	Keiko Tsuji	Misae Soto	Sumiko Nakaoka	Yoshie Sato
Fujie Sakakibara	Keiko Martin	Mitsue Murakami	Tadaaki Maeda	Yoshiko Matsuzaki
Fujiko Mukai	Keiko Yanagimoto	Mitsuko Heidtke	Takako Casebeer	Yoshimi Yasumi
Fujiya Yoshimura	Keiko Romeo	Mitsuko Noma	Taeko Schaeffer	Yoshinao Shiohara
Fumiko Lopez	Ken Yoshimoto	Miura Auto Repair	Takashi Oda	Yuki Koguhci
George Kikuta	Kimiko Tiszai	Muneaki Okuyama	Takeshi Nakamura	Yukiko Yamamoto
Hatsuko Mitsuda	Kinichi Torii	Narichika Kawai	Tamako Henken	Yuko Hosaka
Hideo Takayama	Kiyoshi Suzuki	Nobue Ashizawa	Tamiko Namba	Yumiko Watanabe
Hiroko Mine	Koko Doami	Nobuka Kojo	Tatsuko Nishi	
Hiroko Nojima	Kyoko Barnhart	Norie Morita	Teiko Stritch	
Hiroo & Akiko Nakahara	Kyoko Funakoshi	Noriko Kamimoto	Teruko Omori	
Hisae Shimozawa	Kotoko Myers	Osamu Honjo	Tokiyo Kamitono	2021年9月中旬までに頂いた浄財は10849ドルです。
Hisako Nakane	Kumiko Serizawa	Osamu Tanizaki	Tomohiro Kamiya	
Ikuko Matsubayashi	Kuniko Nakamoto	Patricia K Brewer	Tomokazu Shinazato	

▼今年のはじめ、ひっそりと逝った父と家系図を作る旅をしたのは、30年近く前のことです。祖母が亡くなった時、仏壇の中から祖母宛ての古い手紙をみつけた私は、送り主との関係を知りたくて父を巻き込み、家系図づくりを始めました。差出人へ連絡し、父と二人、夜行列車で福島の田舎へ向かいました。駅で迎えてくれたのは、父が初めて会う従兄（手紙の差出人）でした。その従兄に連れていかれたのは山間の里で知らないおじさん、おばさんが十人ほど私たちを待っていました。みな親戚でした。私の祖父は福島県から若いころ樺太へ渡った人で、父は樺太で生まれ育ちました。父が三歳の時に福島島の祖父の生家で撮った古い写真が一枚だけ残っています。親戚がいきなり増えたおかげで、一気に家系調べは進みました。それだけではありません。親戚はみな桃の栽培農家で、それから毎年、東日本震災があるまで何箱も美味しい桃を実家へ送ってくれたのです。山奥の小さな集落への道を歩きながら、父は平家の落ち武者だった先祖を思い浮かべたのか、しばし目をつむっていました。逃れ

てきた山の中で、ひっそりと暮らしていた先祖たちの楽しみは書物を読むことだったようです。

父と最後に会った2年前、「あの時、一緒に先祖のルーツを探しに行けて良かった、ありがとう」と言ってくれた父の言葉をいつも思い出します。先祖があつて自分があるという当たり前のことですが、遠い先祖のことを思うと、不思議とあたたかい気持ちになります。父も母も亡くなり、子供にとっては先祖となる父母の「自分史」があれば、どんなに良かったでしょう。今回の特集「自分史のすすめ」を編集していただくことにしました。

▼パンデミックの中、何とか目標の10号迄こぎつけられたこと、本当に嬉しく思います。今まで、締め切りを守り寄稿して下さいました皆様、本当にありがとうございます。11号からは、発起人を中心とした第一期運営委員から第二期運営委員にバトンが渡りますが、新しいチャランポランの会と「かわら版」を変わらず、よろしくお願い致します。

(きたむら あや)

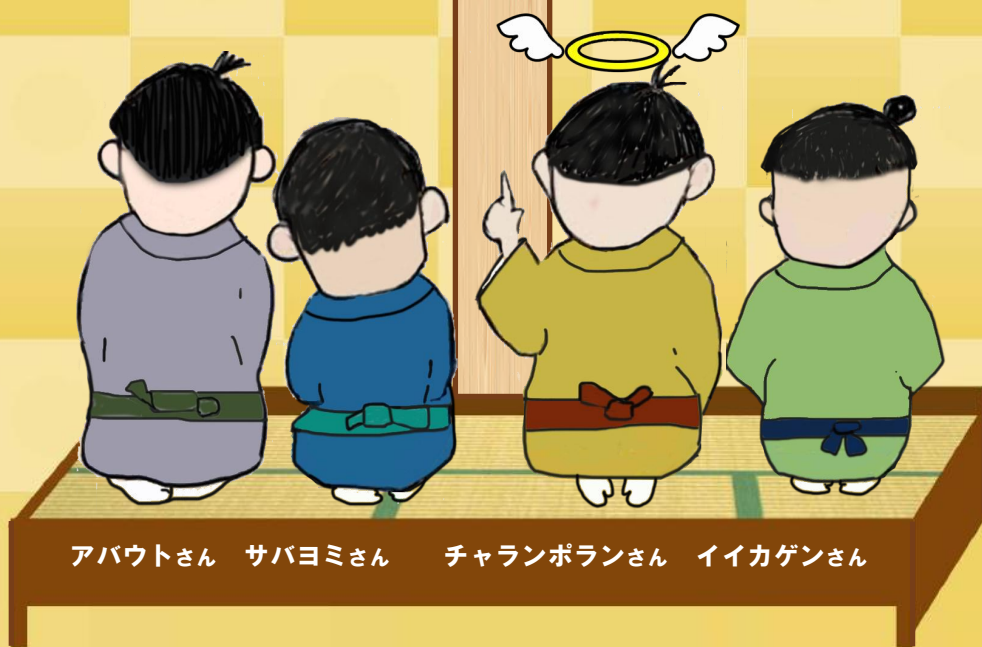
# ちゃらんぽらん



チャランポランの会は、シニアの方たちが、生きがいを持って、人生を楽しみ、健康で長生きすることを目的としています。シニアだからこそ言える苦言、提言、さらに、社会奉仕まで、参加される皆様と一緒に考え、つくり上げていく会です。

風に揺らいでいるチャランポランな葉っぱの木であっても、根っこは長い人生を送ってきた分、どっしりと深く広がっているシニアの木、そのシニアのためのシニアによる会報誌が「かわら版」です。今後のチャランポランの会、並びに「かわら版」をどうぞよろしくお願い申し上げます。

「かわら版」創刊0号（2019年5月発行）に発起人4人の座談会が掲載されています。ウエブサイト [www.charanporanUSA.com](http://www.charanporanUSA.com) を「ご覧ください」。



アバウトさん サバヨミさん チャランポランさん イイカゲンさん